

---

毛呂山町

---

# まま上遺跡Ⅱ

---

総合流域防災(河川)工事(埋蔵文化財発掘調査(整理)委託)報告

2009

埼玉県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 調査区全景



2 調査区全景

## まま上遺跡の紹介

まま上遺跡は、毛呂山町東部の坂戸市境に位置しています。高麗川と葛川に挟まれた細長い台地の高麗川を望む台地縁辺に立地しています。

本遺跡は、葛川放水路の整備に伴って調査され、平安時代（約1,200年前）の集落跡が発見されました。住居跡からは、墨で「王」「春」「十」などの文字が書かれた墨書土器や東海地方で生産された灰釉陶器が出土しました。

毛呂山町教育委員会による隣接地の調査でも墨書土器が出土しており、地域の歴史を語るうえで、貴重な資料が追加されました。

## 序

埼玉県では、「誰もが安心して暮らせる安心・安全 埼玉」を目指し、あらゆる危機や災害に強い体制の整備に努めております。現在、進めております毛呂山町の総合流域防災（河川）工事は、葛川放水路を改修・整備し、浸水被害や土砂災害の軽減を図る治水対策のひとつです。

総合流域防災（河川）工事事業地内には、周知の埋蔵文化財としてまます遺跡の存在が知られており、その取り扱いについて埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置が講じられることとなりました。発掘調査は埼玉県の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

調査の結果、平安時代の集落遺跡であることが明らかになりました。住居跡からは墨で「王」の文字が書かれた墨書土器や東海地方で生産された灰釉陶器が出土しました。文字の意味や性格について興味もたれるところです。

本書はこれらの成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護、普及・啓発の資料として、また学術研究の資料として広く活用いただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力を頂きました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、埼玉県県土整備部河川砂防課、埼玉県飯能県土整備事務所、毛呂山町教育委員会並びに地元関係者の方々に深く感謝申し上げます。

平成21年2月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 刈部 博

## 例言

1. 本書は、入間郡毛呂山町に所在するまます遺跡第10次調査の発掘調査報告書である。
  2. 遺跡の略号と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

まます遺跡第10次 (MMUE10)

埼玉県入間郡毛呂山町大字西大久保791-1番地他

平成18年10月6日付け 教生文第2-51号
  3. 発掘調査は、河川改修工事に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が調整し、埼玉県県土整備部河川砂防課の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
  4. 河川改修工事に伴う発掘調査報告書は下記のとおり刊行されている。

「まます遺跡」事業団報告書第242集 2001
  5. 発掘調査・整理報告書作成事業は、I-3の組織により実施した。発掘調査は、平成18年10月4日から平成18年12月15日まで実施し、田中広明が担当し、澤口和正の協力を得た。

整理・報告書作成事業は、総合流域防災（河川）工事に伴うもので平成20年10月1日から平成20年12月26日まで、山本植が担当して実施し、平成21年2月末に事業団報告書第358集として印刷・刊行した。
  6. 発掘調査における基準点測量は、中央航業株式会社へ委託した。
  7. 発掘調査における写真撮影は担当者が行い、出土遺物の写真撮影は富田和夫が行った。
  8. 出土品の整理・図版作成は山本植が行い、瀧瀬芳之・田中広明・上野真由美の協力を得た。
  9. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、IV-5を上野、鉄製品については瀧瀬、V-2を澤口、その他は山本が行った。
  10. 本書の編集は、山本が行った。
  11. 本書に掲載した資料は、平成21年3月以降埼玉県教育委員会が管理・保管する。
  12. 発掘調査、本書の作成に当たり下記の機関・方々からご教示・ご協力を賜った。記して感謝いたします。（敬称略）
- 毛呂山町教育委員会 毛呂山町歴史民俗資料館 佐藤春生

# 凡例

1. 遺跡全体におけるX・Yの数値は、国土標準平面直角座標第IX系（原点：北緯36°00′00″、東経139°50′00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図内における記した方位はすべて座標北を示している。

C-4グリッド北西杭の座標は世界測地系で、X=-5600.00m、Y=-43090.00m。北緯35°56′54.87″、東経139°21′20.47″である。
2. 調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく、10m×10mの範囲を1グリッドとし、調査区全体をカバーする方眼を組んだ。
3. グリッド名称は、北西隅を基準とし、西から東方向にアルファベット（A・B・C…）、北から南方向に数字（1・2・3…）と付し、アルファベットと数字を組み合わせ、C-3グリッド等と呼称した。
4. 本書の本文・挿図・表中に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

SJ	住居跡	SD	溝跡
SK	土壌	P	ピット
5. 本書における挿図の縮尺は以下のとおりである。

遺構図	
住居跡・土壌・ピット	1:60
溝跡	1:100
溝断面	1:50
遺物実測図	
土器	1:4
石器・拓影図	1:3
鉄器	1:2

その他、埼玉県の地形、周辺地形図、周辺の遺跡、遺跡位置図、遺跡全体図、ピット位置図は個別に縮尺を設定した。
6. 実測図の表記方法は以下のとおりである。断面黒塗りしたものは須恵器で、酸化焙焼成の須恵器は黒塗りをしていない。また、灰軸陶器は断面に40%、灰軸10%の網かけで示した。また、土器の「| |」はヘラケズリの範囲を表す。
7. 遺構断面図に表記した水準数値は、海拔標高を表す。
8. 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。
  - ・口径・器高・底径はcm、重さはgを単位とする。
  - ・（ ）内の数値は口径・底径は復元推定値を示し、器高は現存高を示す。
  - ・胎土は肉眼で観察できるものを示した。

雲	：雲母	片	：片岩	角	：角閃石	長	：長石
石	：石英	軽	：軽石	砂	：砂粒子	赤	：赤色粒子
白	：白色粒子	針	：白色針状物質	黒	：黒色粒子	礫	：小礫
  - ・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けた。
  - ・土器の色調の表記は「新版標準土色帖」2002年度版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所監修）に従った。
  - ・残存は残存率を指し、残存率は図示した器形の部分に対する割合を示した。
9. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1/25,000地形図、毛呂山町発行1/2,500、1/10,000地形図を使用した。

# 目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	1. 住居跡	14
1. 発掘調査に至る経過	1	2. 土壙	29
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	3. 溝跡	35
3. 発掘調査・報告書作成の組織	3	4. ビット	40
II 遺跡の立地と環境	4	5. グリッド出土遺物	46
1. 地理的環境	4	V 調査のまとめ	48
2. 歴史的環境	5	1. まま上遺跡の時期的変遷	48
III 遺跡の概要	10	2. 「王」銘墨書について	50
IV 遺構と遺物	14	写真図版	

## 挿図目次

第1図	埼玉県の地形	4	第21図	第8号住居跡	27
第2図	周辺の遺跡(旧石器～弥生時代)	7	第22図	第8号住居跡出土遺物	28
第3図	周辺の遺跡(古墳時代以降)	8	第23図	土壌(1)	30
第4図	遺跡周辺の地形図	11	第24図	土壌(2)	32
第5図	調査区位置図	12	第25図	土壌(3)	34
第6図	遺跡全体図	13	第26図	第11号土壇出土遺物	35
第7図	第1号住居跡	14	第27図	第1・2号溝	36
第8図	第1号住居跡出土遺物	15	第28図	第1号溝出土遺物	37
第9図	第2号住居跡	16	第29図	第3号溝	37
第10図	第2号住居跡出土遺物	17	第30図	第3号溝出土遺物	38
第11図	第3号住居跡	18	第31図	第5号溝	38
第12図	第3号住居跡出土遺物	18	第32図	第4・6～9号溝	39
第13図	第4号住居跡	19	第33図	第7～9号溝出土遺物	40
第14図	第4号住居跡出土遺物(1)	20	第34図	ピット(1)	41
第15図	第4号住居跡出土遺物(2)	21	第35図	ピット(2)	42
第16図	第5号住居跡	22	第36図	グリッド出土遺物(1)	47
第17図	第5号住居跡出土遺物	23	第37図	グリッド出土遺物(2)	47
第18図	第6号住居跡	24	第38図	武蔵国内出土「王」銘墨書関連資料	51
第19図	第6号住居跡出土遺物(1)	26			
第20図	第6号住居跡出土遺物(2)	27			

## 表目次

第1表	周辺の遺跡一覧	9	第10表	第1号溝出土遺物観察表	37
第2表	第1号住居跡出土遺物観察表	15	第11表	第3号溝出土遺物観察表	38
第3表	第2号住居跡出土遺物観察表	17	第12表	第7～9号溝出土遺物観察表	40
第4表	第3号住居跡出土遺物観察表	19	第13表	ピット計測表(1)	43
第5表	第4号住居跡出土遺物観察表	21	第14表	ピット計測表(2)	44
第6表	第5号住居跡出土遺物観察表	24	第15表	ピット計測表(3)	45
第7表	第6号住居跡出土遺物観察表	25	第16表	グリッド出土遺物観察表	47
第8表	第8号住居跡出土遺物観察表	28	第17表	武蔵国内出土「王」銘墨書関連資料	51
第9表	第11号土壇出土遺物観察表	35		集成表	51



# 写真図版目次

図版 1	1	調査区全景	2	第 2 号住居跡 (第10図 1)
	2	調査区北部	3	第 2 号住居跡 (第10図 1) 底部
	3	調査区南部	4	同上 (墨書)
図版 2	1	第 1 号住居跡遺物出土状況 (1)	5	第 2 号住居跡 (第10図 2)
	2	第 1 号住居跡遺物出土状況 (2)	6	第 3 号住居跡 (第12図 1)
	3	第 1 号住居跡遺物出土状況 (3)	7	第 3 号住居跡 (第12図 2)
図版 3	1	第 1 号住居跡遺物出土状況 (4)	8	第 3 号住居跡 (第12図 3)
	2	第 1 号住居跡遺物出土状況 (5)	9	第 4 号住居跡 (第14図 2)
	3	第 1 号住居跡	図版13	1 第 4 号住居跡 (第14図 1) 内面
図版 4	1	第 2 号住居跡遺物出土状況 (1)	2	同上 (墨書)
	2	第 2 号住居跡遺物出土状況 (2)	3	第 4 号住居跡 (第14図 1)
	3	第 2 号住居跡遺物出土状況 (3)	4	第 4 号住居跡 (第14図 3)
図版 5	1	第 2 号住居跡カメラ	5	第 4 号住居跡 (第14図 5)
	2	第 2 号住居跡	6	第 4 号住居跡 (第14図 8)
	3	第 3 号住居跡	7	第 4 号住居跡 (第14図11)
図版 6	1	第 4 号住居跡遺物出土状況 (1)	8	第 4 号住居跡 (第14図14)
	2	第 4 号住居跡遺物出土状況 (2)	図版14	1 第 4 号住居跡 (第14図10)
	3	第 4 号住居跡遺物出土状況 (3)	2	同上 (墨書)
図版 7	1	第 4 号住居跡遺物出土状況 (4)	3	第 4 号住居跡 (第14図18)
	2	第 4 号住居跡遺物出土状況 (5)	4	第 5 号住居跡 (第17図 1)
	3	第 4 号住居跡	5	第 4 号住居跡 (第14図12) 内面
図版 8	1	第 5 号住居跡焼土出土状況	6	同上 (墨書)
	2	第 5 号住居跡	7	第 4 号住居跡 (第14図12)
	3	第 6 号住居跡遺物出土状況 (1)	図版15	1 第 5 号住居跡 (第17図 2)
図版 9	1	第 6 号住居跡遺物出土状況 (2)	2	第 5 号住居跡 (第17図 3)
	2	第 6 号住居跡遺物出土状況 (3)	3	第 5 号住居跡 (第17図 4)
	3	第 6 号住居跡遺物出土状況 (4)	4	第 5 号住居跡 (第17図 5)
図版10	1	第 6 号住居跡	5	第 5 号住居跡 (第17図12)
	2	第 6 号住居跡カメラ	6	第 6 号住居跡 (第19図 1)
	3	第 4・8 号住居跡	7	第 6 号住居跡 (第19図 2)
図版11	1	第 4 号土塼	8	第 6 号住居跡 (第19図 3)
	2	第 1 号溝跡	9	第 6 号住居跡 (第19図 9)
	3	第 7・8・9 号溝	10	第 8 号住居跡 (第22図 1)
図版12	1	第 1 号住居跡 (第 8 図 1)	図版16	1 第 1 号住居跡 (第 8 図 4)

- |      |   |                 |      |                 |                             |
|------|---|-----------------|------|-----------------|-----------------------------|
|      | 2 | 第2号住居跡 (第10図4)  | 4    | 第6号住居跡 (第20図23) |                             |
|      | 3 | 第3号住居跡 (第12図6)  | 5    | 第4号住居跡 (第14図7)  |                             |
|      | 4 | 第3号住居跡 (第12図7)  | 6    | 第6号住居跡 (第20図22) |                             |
|      | 5 | 第4号住居跡 (第14図21) | 7    | 第1号住居跡 (第8図7)   |                             |
|      | 6 | 第4号住居跡 (第14図22) | 図版18 | 1               | グリッド出土遺物 (1)<br>(第36図1～12)  |
| 図版17 | 1 | 第8号住居跡 (第22図2)  |      | 2               | グリッド出土遺物 (1)<br>(第36図13～23) |
|      | 2 | 第4号住居跡 (第14図6)  |      |                 |                             |
|      | 3 | 第4号住居跡 (第15図27) |      |                 |                             |

# I 発掘調査の概要

## 1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、近年の想定を超える集中豪雨による河川未改修区間や都市部での水害・土砂災害等を軽減し、安全安心に暮らせる県土を実現するため、河川改修や下水道雨水幹線、土砂災害防止施設などの整備を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課では、県が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係部局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

本報告書に係る葛川河川改修は、越辺川下流の水害防止のため、上流域の雨水を高麗川に導引する放水路として計画されたものである。

当事業の別箇所については、すでに平成10年7月9日付け飯土第653号で、埼玉県飯能土木事務所長（当時）から文化財保護課長（当時）あてに工事計画の照会があり、平成10年8月12日付け教文第620号及び平成10年10月17日付け教文第897号で、文化財保護課長（当時）から埼玉県飯能土木事務所長（当時）あてに回答し、平成11年7月1日から9月30日まで、発掘調査が実施された。

本報告書に係る箇所は、当該事業に先立ち河川砂防課より平成18年4月24日付け河砂第90号で、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて生涯学習文化財課長あて照会があったもので、生涯学習文化財課は平成18年5月11日に遺跡所在及び範囲等確認のための試掘調査を実施した。その結果、埋蔵文化財の所在が明確になったことから、平成18年6月2日付け教生文第557号で次の内容の回答を行った。

### 1 埋蔵文化財の所在

名称 (NO)	種別	時代	所在地
まます遺跡 (26-056)	集落跡	縄文・平安	毛呂山町大字 西久保字まます上

### 2 手続

工事予定地内には、上記の埋蔵文化財包蔵地

が所在しますので、工事着手に先立ち、文化財保護法第94条の規定による発掘通知を提出してください。

### 3 取扱い

「発掘調査が必要な区域」については、工事計画上やむを得ず現状を変更する場合には、記録保存のための発掘調査を実施してください。

「工事に着手して差し支えない区域」については、工事中に新たに埋蔵文化財を発見した場合は、直ちに工事を中止して、取扱いについて当課と協議してください。

河川砂防課と生涯学習文化財課・毛呂山町教育委員会は、その取扱いについて協議を重ね、現状保存は困難であることから記録保存の措置を講ずることになった。その後、発掘調査実施機関である財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団と、河川砂防課・生涯学習文化財課の三者で工事日程、調査計画、調査期間などについて協議した。

文化財保護法第94条1項の規定による埋蔵文化財発掘通知が埼玉県飯能土木整備事務所長から提出され、同条4項の規定により、記録保存のための発掘調査を実施するよう埼玉県教育委員会教育長から通知した。その後、第92条1項の規定による発掘調査届が財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され、発掘調査が実施された。

発掘通知及び発掘調査届に対する県教育委員会教育長からの勧告及び指示通知は次のとおりである。

発掘通知に対する勧告：

平成18年9月25日付け教生文第3-692号

発掘調査届に対する指示通知：

平成18年10月6日付け教生文第2-51号

(埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課)

## 2. 発掘調査・報告書作成の経過

### (1) 発掘調査

まます遺跡の第10次発掘調査は、平成18年10月4日から平成18年12月15日まで実施した。調査面積は640㎡である。

10月に事務手続きと事務所設置を行い、重機により遺構確認面までの表土掘削に着手した。表土除去終了後、人力による遺構確認作業・基準点測量を行った。引き続き各遺構を掘り下げて土層断面図・遺物分布図や遺構平面図などの作成を行った。写真撮影は、遺物分布状況や遺物出土状況及び遺構等を撮影し調査記録を作成した。

11月末には、遺構の調査をほぼ終了し、調査区全景写真撮影を実施した。その後、遺構平面図の確認・補足作業を行い、遺構の調査を終了した。

その後、事務所の撤去及び調査区の埋戻し、事務手続き等を行い、12月中旬に本事業を完了した。

### (2) 整理・報告書の作成

整理・報告書の作成事業は、平成20年10月1日から平成20年12月26日までの3ヶ月間にわたって実施した。

遺物の接合・復元作業を実施し、接合の終了した遺物から順次、遺物実測を開始した。土師器等は機械実測を利用して素図を作成し、その素図を

もとに実測図を完成させた。

実測図・断面図は製図ペンで墨入れ（トレース）し、必要に応じて拓影をとった。実測図・断面図と拓影図を組み合わせレイアウトを行い、遺物図版の版下を作成した。

遺構図版は図面整理と修正を経て、第二原図を作成した。第二原図はスキャナーでコンピューターに取り込んだ後、グラフィックソフトでデジタルトレースし、スクリーントーン・諸記号を貼り込み、土層説明等の入力データを組み込んで編集作業を実施し、遺構図版の版下を作成した。

実測遺物はその属性をパソコンに入力し、データ処理・編集して遺物観察表を作成した。

また、遺存度の高い遺物を中心に石膏による復元作業を行い、写真撮影を実施した。併行して調査時に撮影した写真を選択し、遺物写真とともにパソコン内で編集を行い写真図版を作成した。

作成したデータを基に原稿を執筆し、遺構図版・遺物図版・写真図版などを組み合わせて割付を作成した。原稿執筆や割付などの編集作業を12月中に完了し、印刷業者を選定し入稿した。校正は3回を行い、平成21年2月末に報告書を刊行した。

また、図面類・写真類・遺物は整理分類して、収納作業を実施した。

### 3. 発掘調査・報告書作成の組織

#### 平成18年度（発掘調査）

理 事 長	福 田 陽 充	調 査 部	
常務理事兼総務部長	岸 本 洋 一	調 査 部 長	今 泉 泰 之
総務部		調 査 部 副 部 長	小 野 美 代 子
総務部 副部長	昼 間 孝 志	調 査 第 二 課 長	細 田 勝
総 務 課 長	高 橋 義 和	主 査	田 中 広 明

#### 平成20年度（報告書作成）

理 事 長	刈 部 博	調 査 部	
常務理事兼総務部長	萩 元 信 隆	調 査 部 長	村 田 健 二
総務部		調 査 部 副 部 長	磯 崎 一
総務部 副部長	昼 間 孝 志	整 理 第 二 課 長	富 田 和 夫
総 務 課 長	松 盛 孝	主 査	山 本 禎

## II 遺跡の立地と環境

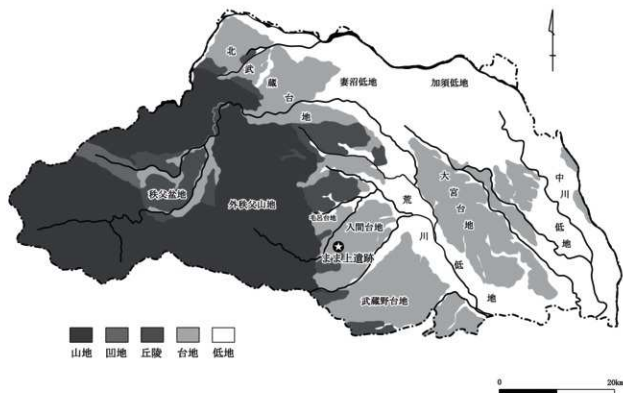
### 1. 地理的環境

まます遺跡は、埼玉県入間郡毛呂山町大字西大久保に所在し、東武越生線川角駅の北北東約1.5 kmに位置し、毛呂台地南東部の高麗川と葛川に挟まれた標高約43mの細長い台地上に立地する。

遺跡の所在する毛呂山町は、外秩父山地と関東平野が接する位置にあり、町内中央部を南北に走る八王子-高崎構造線を境に、西部の山地と東部の台地・丘陵に大きく分かれる。山地部は外秩父山地の東縁にあたり、台地に移行していく中小の起伏がある山地である。山地内は越辺川の支流である毛呂川、阿諏訪川、大谷木川と高麗川支流の宿谷川によって開析されている。丘陵は北に岩殿丘陵、南に毛呂山丘陵が半島状に東へ突出し、毛

呂山丘陵は上部に薄い多摩ローム層を乗せている。

この二つの丘陵の間にある洪積台地は、入間台地の一部を構成するもので毛呂台地と呼ばれる。この台地は、越辺川とその支流の毛呂川や大谷木川などが形成した扇状台地で、表面には関東ローム層が堆積する。標高80mから40m前後を測り、東に向かって低くなる。さらに、山地から流れる越辺川、その支流である毛呂川、大谷木川、阿諏訪川、葛川、高麗川とその支流である宿谷川が東流し、幾筋かの東西方向の細長い台地に開析されている。集落は各河川沿いの段丘と台地に、丘陵部では低平な尾根や緩斜面、北縁から東へ延びる狭小な帯状台地や微高地に営まれている。



第1図 埼玉県の地形

## 2. 歴史的環境

まます遺跡の所在する毛呂山町は西に山地、南と北に丘陵があり、それらに囲まれ台地となっている。遺跡の分布は、台地・丘陵域に大半が占められ、越辺川流域・高麗川流域、葛川流域の三群に分けることができる。

旧石器時代の遺跡は確実なものはないが、越辺川支流の大谷木川左岸の微高地上に伴六遺跡(23)があり尖頭器と細部調整剥片、東本遺跡(22)からも尖頭器が検出されている。

縄文時代は、草創期・早期の遺跡は少なく、早期の遺跡は毛呂山丘陵周辺と葛川左岸の毛呂台地南縁部にある。毛呂山丘陵周辺部の三角南遺跡、葛川左岸の毛呂台地南縁に六本松B遺跡(25)、下谷ヶ跨A遺跡、虫塚A遺跡などがあるが、越辺川流域では松の外遺跡(10)のみである。早期前半の摺糸文系土器を出土する遺跡は下谷ヶ跨A遺跡のみで、他はいずれも条痕文系土器群である。

前期になると葛川低地沿いから丘陵・台地域に分布するようになる。葛川低地沿いでは山田遺跡(27)のみで、岩殿丘陵に金谷遺跡(5)、毛呂山丘陵に山ノ神遺跡(33)、台地部に八反田遺跡(20)、下中尾遺跡(31)などがある。前期前半の遺跡は久根下遺跡(9)で関山式期の土器が採取されている。黒浜式期から諸磯式期にかけての遺跡は、黒浜式期の遺跡は山田遺跡・下中尾遺跡・山ノ神遺跡・八反田遺跡・金谷遺跡・松の外遺跡・松葉遺跡がある。諸磯式期の遺跡は下中尾遺跡であるが、黒浜式期から続く遺跡として金谷遺跡・松の外遺跡がある。松の外遺跡は越辺川左岸の岩殿丘陵の南縁から南東方向へ張り出した台地上にあり、黒浜式期の住居跡や加曾利B式期の集石遺構も検出されている。また、高麗川右岸の河岸段丘上に愛宕久保遺跡(39)・田波目遺跡(40)がある。

中期になると遺跡は増加し、毛呂山丘陵から高麗川右岸台地、越辺川右岸台地に多く、越辺川支流の台地内部にも分布している。大半が勝坂式期

から加曾利E式期の遺跡で、勝坂期の遺跡は下中尾遺跡・山田遺跡・松葉遺跡・三角南遺跡・山ノ神遺跡・塚場山遺跡(24)などで、勝坂式期と加曾利E式期が複合する遺跡も多く、まます遺跡・新田東遺跡(32)・西ノ前遺跡・久保遺跡・上殿遺跡(35)・京の字遺跡・中野遺跡・築地遺跡(2)・蟹ヶ沢遺跡(28)が確認されている。新田東遺跡は毛呂山丘陵の帯状の東に延びる狭い台地の尾根上から南斜面にかけての集落で、これまで81軒の住居跡が検出されている。加曾利E式期は北山遺跡(3)・本社遺跡(29)・堀込遺跡・白綾遺跡(21)・伴六遺跡・後原遺跡・光山遺跡・東本遺跡・愛宕下遺跡・大利原遺跡・延命寺北遺跡・松の外遺跡が確認されている。白綾遺跡は毛呂台地の北縁に位置し、越辺川右岸の北面する半島状の台地先端に立地し、住居跡数軒に配石遺構・集石遺構などが検出されている。また、高麗川右岸の河岸段丘上に愛宕久保遺跡がある。

後期になると激減し、越辺川流域の松の外遺跡、越辺川支流の古宮遺跡、伴六遺跡、毛呂山丘陵の西ノ前遺跡がある。後期の遺跡は称名寺式期の土壌が検出されたまます遺跡、称名寺式から加曾利B式期の松の外遺跡と加曾利B式期の古宮遺跡のみである。晩期になるとほとんど確認されていない。

弥生時代も遺跡が少なく、まます遺跡で一辺8mを越える大型住居跡、後期の上殿遺跡・中在家遺跡と下中尾遺跡・西ヶ谷北遺跡(17)が確認されているだけである。中在家遺跡は西部の山地帯の小さな谷あいにもあり壺形土器が出土しているが集落跡ではない遺跡とされている。西ヶ谷北遺跡は葛川の低地を望む台地縁部の集落で中期後半の宮ノ台式期併行の住居跡が検出されている。

古墳時代の遺跡は越辺川流域や葛川低地沿いに分布し、台地内陸部ではほとんど確認されていない。越辺川右岸と毛呂台地の北縁に挟まれた低地

に位置する堂山下遺跡(11)から五領式期の住居跡が検出された。前期は塚場山遺跡、中期には葛川右岸の低台地上に矢鳥遺跡(26)があり住居跡16軒が検出されている。後期の久根下遺跡の他に上殿遺跡・西ヶ谷北遺跡・八反田遺跡・築地遺跡・本社遺跡がある。また、毛呂台地東先端縁部に古墳時代前期の周溝墓と古墳時代後期から奈良・平安時代に続く集落の稲荷前遺跡(37)や古墳時代後期から奈良・平安時代に続く集落の塚の越遺跡(38)がある。

古墳は、越辺川流域には後期の古墳群として大類古墳群(A)・川角古墳群(B)・西戸古墳群(C)の各古墳群がある。大類古墳群と川角古墳群の間にある宿浦遺跡(13)、川角古墳群の南に位置する苗木原遺跡(19)でも古墳跡や石室が検出されている。大類古墳群は越辺川右岸段丘上の毛呂台地の北縁部に位置し、隣接する坂戸市塚原古墳群と合わせて苦林古墳群と呼ばれることがあり、総数は前方後円墳5基、円墳50基が確認されている。川角古墳群は越辺川右岸、大類古墳群よりやや上流に位置し、38基の円墳が確認されている。また、大類古墳群と川角古墳群間にある宿裏遺跡でも円墳跡が検出された。川角古墳群の対岸には西戸古墳群があり、大類・川角古墳群が河原石積みの主体部を持つのに対し、河原石積みに加え凝灰岩質砂岩の切石積みや箱式石棺等多様な埋葬施設がみられる。西戸古墳群は8世紀初頭の遺物が出土しており、最終末期まで利用されていたことが窺える。川角古墳群の南に位置する苗木遺跡でも古墳主体部と思われる石組み遺構が発見され、鉄刀が出土したといわれている。鎌倉街道遺跡(18)で2基の円墳が検出され、河原石積みのものと凝灰岩質砂岩切石積みの石室が確認され、8世紀第1四半期に該当する須恵器が出土しており、終末期の古墳と考えられる。さらに数基の古墳が確認されている。

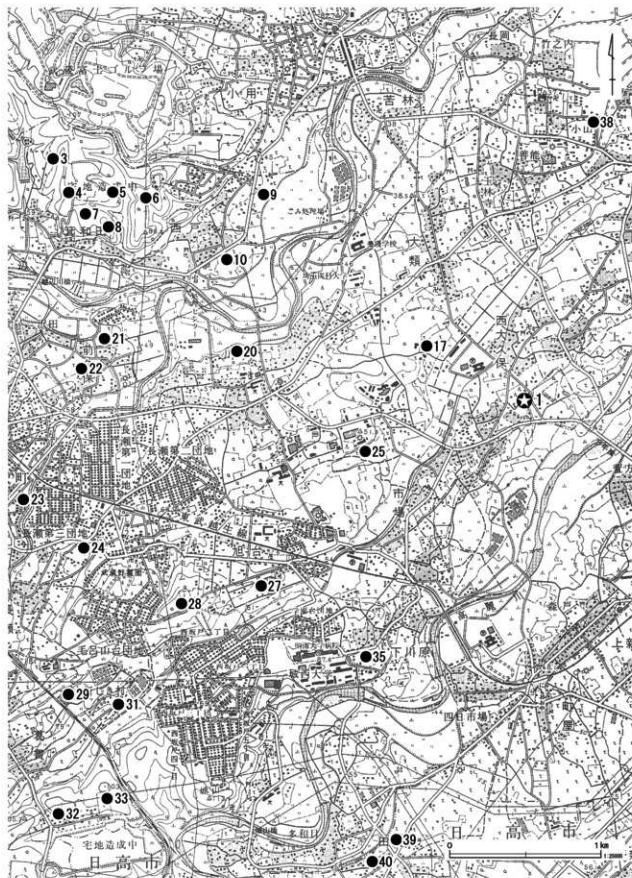
奈良・平安時代は高麗川左岸台地や越辺川左岸

台地に多く、台地内陸部にも見られるようになる。奈良時代は、上殿遺跡・表B遺跡(34)の他に窯跡と見られる西戸丸山遺跡は8世紀前半まで遡ると考えられている。縄文中期の大集落と思われる上殿遺跡(35)は高麗川左岸の蛇行する高麗川に向かって傾斜する毛呂台地にあり、奈良時代の住居跡も検出されている。上殿遺跡の河岸段丘上の表B遺跡も8世紀前半から半ばの住居跡が検出されている。

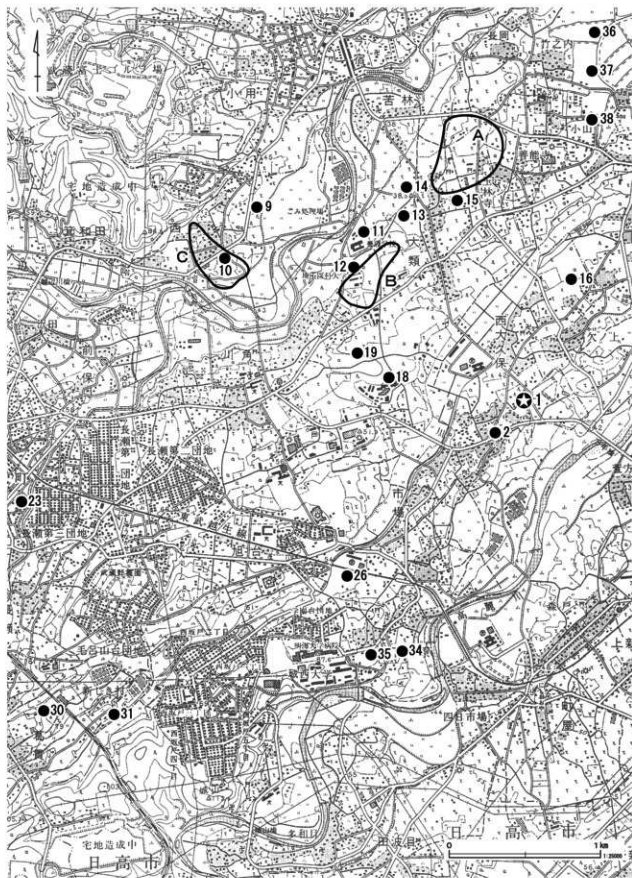
平安時代は、まます遺跡と隣接する築地遺跡の他に伴六遺跡・松の外遺跡・金谷遺跡・東原遺跡(30)・本社遺跡・堂庭遺跡がある。伴六遺跡は越辺川の支流である大谷木川右岸の微高地に位置し、平安時代の住居跡20軒が検出されている。堂庭遺跡は山地の内部にあり、平場から瓦が出土している。大寺廃寺は高麗川の支流である宿谷川の左岸毛呂山丘陵の緩斜面にあり、礎石建物跡や9世紀後半以降の瓦などが検出されている。

中世は、鎌倉街道遺跡で硬化面と側溝状の溝を伴う道路遺構が確認され、堂山下遺跡でもトレンチ調査で道路遺構が確認されている。推定鎌倉街道渡河地点の堂山下遺跡は、概ね14世紀後半から16世紀初頭を中心に展開された集落である。高麗川右岸の台地上には中世の遺跡があり、堂山下遺跡の南の崇徳寺跡(12)からは延慶三(1310)年銘の板碑やその直下から出土した蔵骨器や中世墓から出土した蔵骨器がある。他に中世館跡の大類館跡(15)や板碑を蓋石として転用した墓塚が確認された神明台遺跡(14)、中世墓や板碑が多数出土した常楽寺跡(16)などがある。山地寄りの台地にも、方形に廻る土塁が残る斎藤氏館跡、武蔵武士の毛呂氏所縁の妙玄寺には宝篋印塔・五輪塔が多数残されている。毛呂氏館跡からは板碑・土鍋類が出土した。毛呂氏の氏神的存在であった出雲伊波比神社は、大永八(1528)年に再建された県内最古の神社建築である。





第2図 周辺の遺跡 (旧石器～弥生時代)



第3図 周辺の遺跡（古墳時代以降）

第1表 周辺の遺跡一覧

毛呂山町	1	まま上遺跡	縄(中・後)、弥、平、中
	2	築地遺跡	縄(中)、古(前)、平
	3	北山遺跡	縄(中)
	4	立沢遺跡	縄(前)
	5	金谷遺跡	縄(前)
	6	西戸西原遺跡	縄(前)
	7	大満山B遺跡	縄(中)
	8	大満山A遺跡	縄(中)
	9	久根下遺跡	縄(前)、古(後)
	10	松の外遺跡	縄(前・後)、平
	11	堂山下遺跡	古(前)、中
	12	崇徳寺跡	中
	13	宿浦遺跡	古(後)
	14	神明台遺跡	中
	15	大類館跡	中
	16	常楽寺跡	中
	17	西ヶ谷北遺跡	弥(中)
	18	鎌倉街道遺跡	古、中
	19	苗木原遺跡	古(後)
	20	八反田遺跡	縄(前)、古
	21	白綾遺跡	縄(中)
	22	東本遺跡	旧、縄(中)
	23	伴六遺跡	旧、縄(中・後)、平、中

毛呂山町	24	塚場山遺跡	縄(中)、古(前)
	25	六本松B遺跡	縄(早)
	26	矢鳥遺跡	古(中)
	27	山田遺跡	縄(前)
	28	蟹ヶ沢遺跡	縄(中)
	29	本社遺跡	縄(中)、古、平
	30	東原遺跡	平
	31	下中尾遺跡	縄(早・前・中)、弥(後)、古
	32	新田東遺跡	縄(中)
	33	山ノ神遺跡	縄(前・中)
34	表B遺跡	縄(中)、奈	
35	上殿遺跡	縄(中)、古(後)、奈	
A	大類(塚原)古墳群	古(後)	
	B	川角古墳群	古(後)
	C	西戸古墳群	古(後)
坂戸市	36	棚田遺跡	古(後)
	37	稲荷前遺跡	古(前、後)、奈、平、中
	38	塚の越遺跡	縄(中)、弥(後)、古(後)、奈、平
日高市	39	愛宕久保遺跡	縄(早・前・中)
	40	田波目遺跡	縄(前・前・中)

旧=旧石器時代 縄=縄文時代 弥=弥生時代 古=古墳時代  
 奈=奈良時代 平=平安時代 中=中世 近=近世  
 (早)=早期 (前)=前期 (中)=中期 (後)=後期 (晩)=晩期

### Ⅲ 遺跡の概要

まます遺跡は、入間郡毛呂山町大字西大久保地内の標高43m程の台地上に位置し、遺跡の範囲は東西約350m、南北370mの規模をもち、一部は坂戸市域まで広がるものと推定される。

遺跡の南東側は高麗川によって形成された河岸段丘の崖線であり、北側及び北西側は葛川によって形成された沖積低地で、葛川に向かって緩やかに傾斜している。まます遺跡が位置する東西に延びる台地上には遺跡が連続してあるため、南西に位置する築地遺跡や北東側の八坂神社前遺跡との境界線は明瞭に得ない。各遺跡ともに各時代が複合し、遺跡の範囲を越えその時代ごとに相互に関連したものと推定される。

まます遺跡は、毛呂山町教育委員会によって9箇所、埼玉県埋蔵文化財調査事業団により第8次調査の発掘調査が行われており、今回の調査が第10次調査となる。第1次～第4次調査、第6次調査、第8次調査については報告書が刊行されている。

第1次調査では平安時代の住居跡2軒、土壌2基、第2次調査では平安時代の住居跡2軒、時期不明の特殊遺構1基・土壌11基、第3次調査では縄文時代中期の住居跡2軒、平安時代の住居跡4軒、時期不明の土壌11基、第4次調査では縄文時代の集石遺構3基、時期不明の土壌43基、溝跡1条、第6次調査では縄文時代中期の住居跡1軒、弥生時代後期の住居跡1軒、平安時代の住居跡1軒、時期不明の溝跡1条、第8次調査では縄文時代中期の住居跡5軒、集石土壌11基、埋壺1基、土壌50基、時期不明の掘立柱建物跡8棟、土壌54基、溝7条、ピット多数が検出されている。

今回の第10次調査は、調査区北西部が毛呂山町による第1次調査でカマドと住居跡の一部を調査した住居跡を含めて、平安時代の住居跡7軒、溝跡1条、中・近世の土壌47基、溝跡8条、ピット多数が検出された。今回の調査区は、遺跡範囲の中央南東端で高麗川の段丘の上で東側は崖状になっている。調査区南部は崖に向かう傾斜地で等高線に沿うように溝6条が並走し、住居跡は台地崖線から離れた溝より西側の台地平坦部に検出された。住居跡はいずれも一辺が3.5m～4.0mが主体であるが、第4号住居跡は4.5m×5.0mほどで、他の住居跡よりやや大型のものである。出土遺物からは住居跡のなかで最も新しく、唯一灰軸陶器がまとまって出土した住居跡である。

墨書土器は第2号住居跡と第4号住居跡から出土し、墨書は「王」の文字があり、第2号住居跡では須恵器坏底部内面に「王」の墨書土器がある。第4号住居跡では、須恵器坏の底部内面と須恵器坏体部外面に「王」の墨書、須恵器坏底部内面に三本の平行線の墨書、須恵器碗の体部外面に「春」の墨書、須恵器皿底部内面に「十」字状の墨書、須恵器坏一部の体部外面に文字不明な墨書など6点の墨書土器が出土している。総数は7点となる。

その他に、鉄製品では第1号住居跡からは刀子、第4号住居跡からは雁股鏃、第6号住居跡からは鉄斧と刀子が出土した。

まます遺跡は、縄文時代中期、奈良・平安時代を中心とした複合遺跡で、弥生時代後期の住居跡も検出されている。縄文時代の集落は台地内部にも広がり、平安時代の集落は高麗川段丘寄りに営まれている。

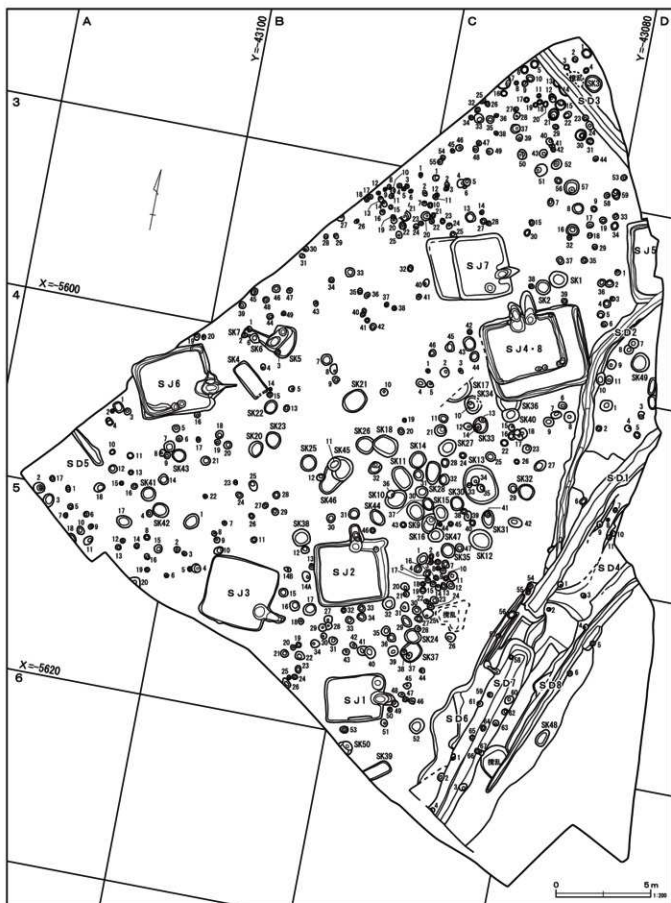


6 仏坂道跡 8 川角古墳群 48 西ヶ谷北道跡 50 苗本原道跡 51 西ノ久保道跡 52 立懸道跡 53 前原道跡 54 西ヶ谷道跡  
 55 六本松A道跡 57 築地道跡 58 前道道跡 59 大利原道跡 61 船原前道跡 63 八坂神社前道跡 64 上道跡 65 大林坊道跡  
 70 満願寺南道跡 91 北原道跡 92 愛宕台道跡 93 西原道跡 106 鎌倉街道A道跡 112 鎌倉街道C道跡  
 (坂戸市) 131 岡山道跡 40 ハッ上道跡

第4図 道跡周辺の地形図



第5図 調査区位置図



第6図 遺跡全体図

## IV 遺構と遺物

調査区北西部の一部は、毛呂山町が第1次調査として住居跡2軒と土壌2基を調査し、『町内遺

跡群発掘調査報告書Ⅰ』毛呂山町埋蔵文化財調査報告第7集として平成2年3月に刊行されている。

### 1. 住居跡

第1次調査区は今回の調査区の北西端にあたり、第1次調査の2号住居跡は南東側の調査区域外に広がっていたことから、カマドと全体の1/4程度の調査しか行えなかった。第1次調査の2号住居跡は、今回の第10次調査で第4号住居跡と呼称する。作り変えられたカマドとしていたものは他の住居跡のカマドであることが確認され、第10次調査では第8号住居跡と呼称した。住居跡が2軒重複していることが確認された。また、第7号住居跡としたものは、第1次調査の1号住居跡であるため、報告は行わない。

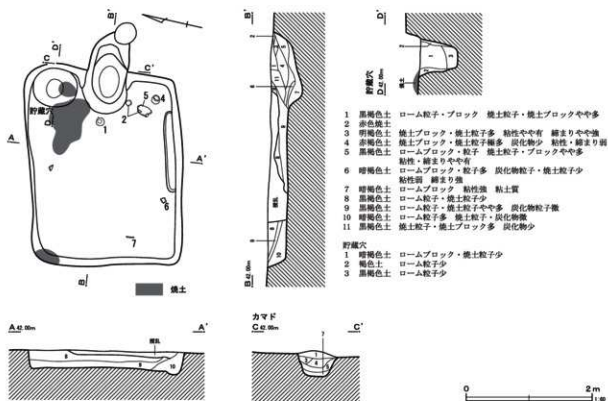
### 第1号住居跡（第7・8図）

B・C-5グリッドに位置する。東辺にカマドをもち、平面形は長方形を呈する。主軸方位は、N-73°-Eを指す。規模は主軸308m、南北242m、深さ27cmを測る。

貯蔵穴は北東隅に設けられており、径70cm×62cmのほぼ円形で、深さ58cmを測る。

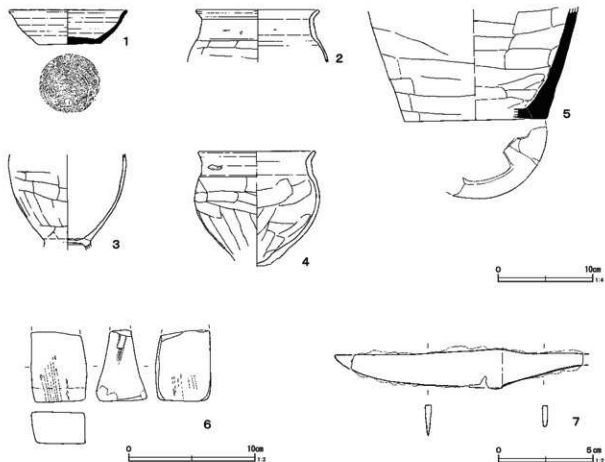
壁溝は南辺の一部に、長さ1.25m、幅約20cm、深さ3～5cmを測る。

カマドは東辺中央に設置され、燃焼部は長軸120cm、幅60cm、深さは床面より23cmで、両袖と



第7図 第1号住居跡





第8図 第1号住居跡出土遺物

第2表 第1号住居跡出土遺物観察表 (第8図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	12.3	3.6	6.5	70	白針黒	普通	灰	体部下半内外面油煙付着 南比金産
2	土師器	小型甕	(12.8)	(6.5)	-	40	片石赤黒	普通	にぶい褐	
3	土師器	台付甕	-	(10.1)	-	30	赤白	普通	にぶい黄褐	
4	土師器	台付甕	12.0	(12.1)	-	95	雲角赤	良好	明赤褐	
5	須恵器	甕	-	(11.7)	(15.0)	30	赤白黒曜	普通	灰白	
6	石器	砥石	現存長(5.5)cm	横4.3cm	厚さ1.7~3.6cm	重さ(109.6)g	泥岩製			五面使用痕
7	鉄製品	刀子	現存長(12.3)cm	刃幅(闊部)2.0cm	背幅0.2~0.3cm	重さ(29.8)g				切先・茎尻欠損

も地山を掘り残したものである。

床面からは焼土が確認でき、北東隅寄りと北西隅に確認できた。北東隅の焼土は貯蔵穴上面に検出されており、貯蔵穴が使用されなくなってから、カマドの焼土がかき出されたと考えられる。

遺物は、カマドの南側に多く、須恵器坏・甕、土師器台付甕、砥石、刀子が出土した。須恵器坏(1)はカマド前の住居跡覆土からの出土で、体部

内外面下半に油煙が付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。土師器甕(2)・砥石(6)は床面から出土した。砥石は泥岩製で、一方が欠損しているが遺存長5.5cmで幅4.3cm、厚さは1.7~3.6cmを測り、重さ109.6gである。断面は撥形で5面の使用が認められる。(7)は鉄製刀子で、切先と茎尻を欠損している。

## 第2号住居跡 (第9・10図)

B・C-4・5グリッドに位置する。北辺にカマドをもち、平面形は方形を呈する。主軸方位は、N-18°-Wを指す。規模は主軸3.31m、東西3.85m、深さ4~12cmを測る。

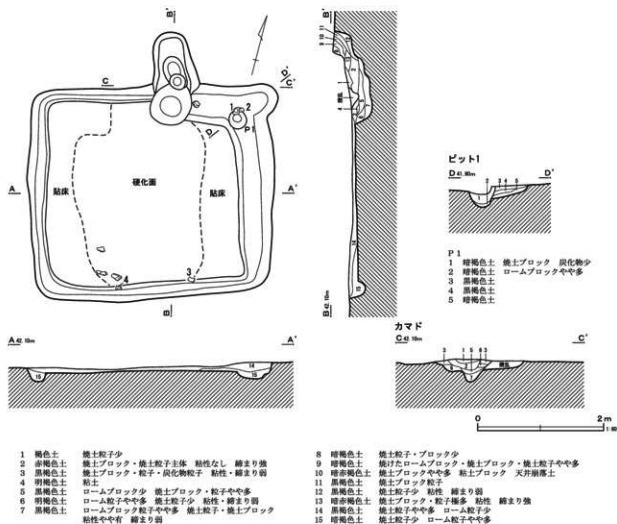
床面は、北辺壁溝及びカマド前から2mの幅で南辺壁溝まで硬化面が確認され、東壁溝側と西壁溝側が貼床として確認できた。

ピットが北東隅の壁溝内に設けられており、径28cm×32cmのほぼ円形で、壁溝底より深さ9cmを測る。

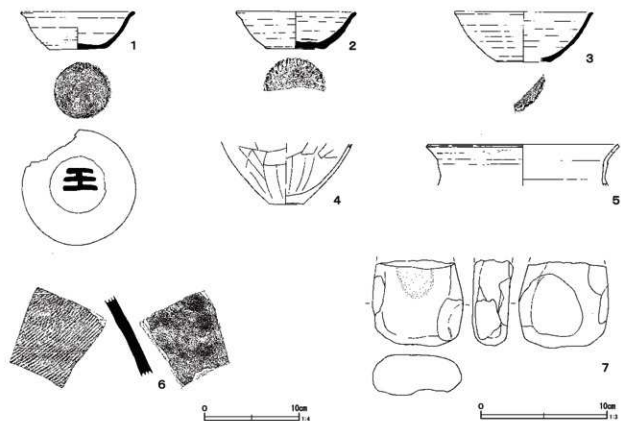
壁溝は全周し、東壁側が幅広くなっており、幅20~45cm、深さ5~13cmを測る。

カマドは北辺のやや東寄りに設置され、燃焼部は長軸107cm、幅73cm、深さは床面より27cm、煙道部は長さ41cm、幅57cm、深さ30cmが確認できた。

遺物は、須恵器環・埴・甕、土師器甕、礫が出土した。須恵器環(1)の底部外面には「王」の墨書があり須恵器環(2)とともにピットの北壁側から出土し、環(2)の上に墨書土器の環(1)が正位で重なっていた。土師器甕(6)もほぼ床から出土した。礫(7)は砂岩製で一方が欠けており遺存長は67cmで幅7.0cm、厚さ3.3cmを測り、重さ251.6gである。両面に平滑面をもち、片面中央が窪んで自然面を残している。



第9図 第2号住居跡



第10図 第2号住居跡出土遺物

第3表 第2号住居跡出土遺物観察表 (第10図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	環	11.6	4.0	5.8	90	赤白針黒	普通	灰	底面外面「王」墨書 南比企産
2	須恵器	環	12.3	3.9	6.2	50	白黒	良好	灰	
3	須恵器	塊	(14.6)	5.2	(5.6)	25	赤白針	普通	灰黄	火樺痕 南比企産
4	土師器	甕	-	(6.5)	3.6	35	赤白黒	普通	灰褐	
5	土師器	甕	(20.0)	(4.3)	-	25	赤黒	普通	橙	
6	須恵器	甕	-	-	-	-	砂白	良好	灰	
7	石器	礫	縦(6.7)cm	横7.0cm	厚さ3.3cm	重さ(251.6)g	砂岩製			

### 第3号住居跡 (第11・12図)

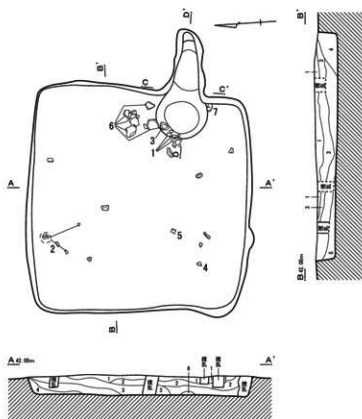
B-5グリッドに位置する。東辺にカマドが設置され、平面形は方形を呈する。主軸方位は、N-95°-Eを指す。規模は主軸350m、南北353m、深さ34cmを測る。

壁溝は、調査住居跡の中で唯一確認されなかった。

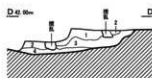
カマドは東辺の南寄りに設置され、燃焼部は長軸110cm、幅68cmで、深さは床面より9cmで、煙

道部は長さ17cm、幅33cm、深さ10cmを測る。

遺物は、カマド前と北側に多く、須恵器環・高台付塊・甕、土師器甕が出土した。須恵器環(2)は床面から出土し、環(1)・(3)はカマド前面から出土した。土師器甕(7)はカマドと東辺壁接合部から出土し、カマド袖は確認できなかったがカマド袖部当たる場所から出土した。須恵器甕(6)はカマドの直ぐ北側の床面から出土した。



カマド



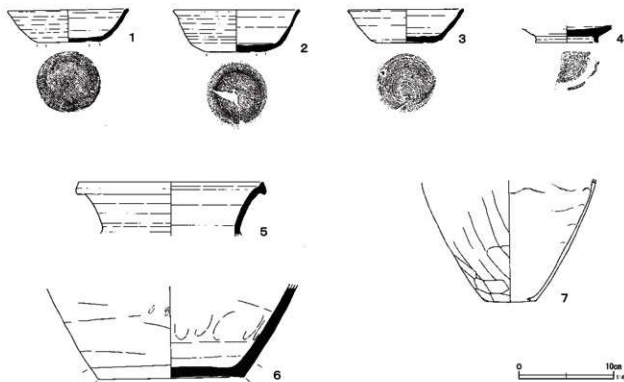
- 1 黒褐色土 ローム粒子少 焼土・炭化物粒子微  
粘性 締まり弱
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多  
粘性 締まり弱
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多  
焼土粒子微  
粘性やや有 締まり弱
- 4 黒褐色土 ローム粒子・ブロックやや多  
焼土ブロック少 粘性 締まり弱
- 5 暗褐色土 ローム粒子 粘性強
- 6 黄褐色土 焼土粒子少 粘性強

カマド

- 1 黒色土 焼土粒子少 炭化物 粒子粗い
- 2 暗黄褐色土 炭化物・焼土 黄褐色粒子少  
粘性 締まり強
- 3 黄褐色土粘土 焼土粒子 粘性強
- 4 黒色土 炭化物少 焼土粒子少
- 5 赤褐色土 焼土ブロック



第11図 第3号住居跡



第12図 第3号住居跡出土遺物

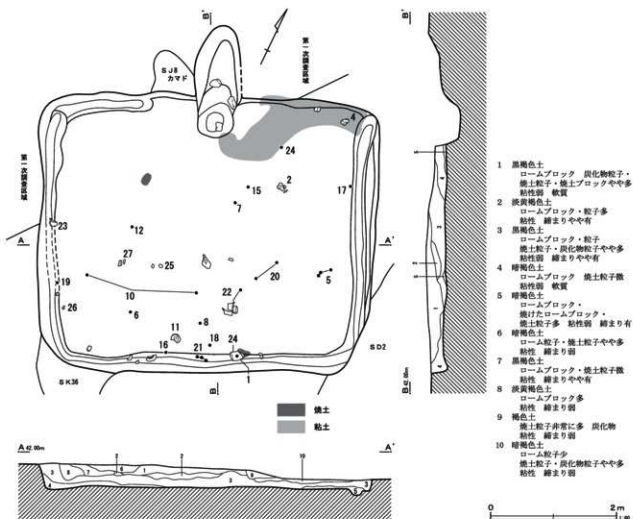
第4表 第3号住居跡出土遺物観察表 (第12図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	12.5	3.4	6.5	100	白針黒	普通	灰	南比企産
2	須恵器	坏	(13.1)	4.5	6.3	80	長白針黒耀	普通	灰	南比企産
3	須恵器	坏	12.1	3.5	6.0	70	白針	良好	灰	南比企産
4	須恵器	高台付埴	-	(1.8)	(6.4)	30	赤針黒	普通	黒褐	南比企産
5	須恵器	甕	(19.4)	(5.7)	-	15	白針	良好	灰	頸部外面のみ自然釉 南比企産
6	須恵器	甕	-	(9.7)	15.4	75	赤白針黒耀	普通	灰黄	南比企産
7	土師器	甕	-	(12.8)	5.5	40	角石赤白	普通	にぶい褐	

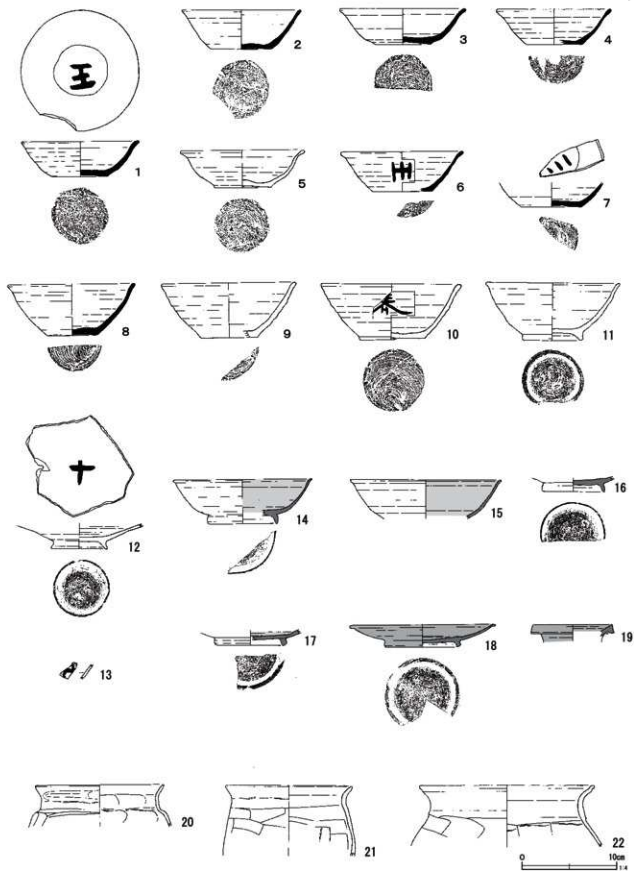
第4号住居跡 (第13~15図)

毛呂山町教育委員会が昭和58年度に第1次発掘調査として、カマドと住居跡全体の1/3ほどを調査した住居跡で、2号住居跡に当たる。今回は、調査されたカマドも含めて掘り上げて、住居跡全体を把握することとして調査を行った。

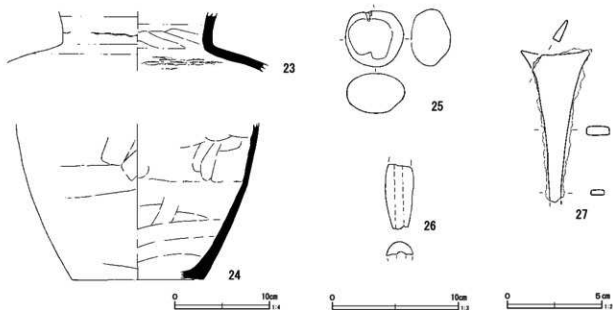
C-3・4グリッドに位置する。第8号住居跡と重複し、第8号住居跡の上にある。南東隅が第2号溝と重複して切られており、南西隅が第36号土塼と重複している。北辺にカマドをもち、平面形は長方形を呈する。主軸方位は、N-25°-Wを指す。規模は主軸4.38m、東西は5.25m、深さ30cm



第13図 第4号住居跡



第14图 第4号住居跡出土遺物 (1)



第15図 第4号住居跡出土遺物(2)

第5表 第4号住居跡出土遺物観察表(第14・15図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	環	12.2	3.7	5.9	95	白黒礫	普通	黄灰	
2	須恵器	環	(12.5)	4.1	6.2	50	白針	普通	灰	南比企産
3	須恵器	環	(13.2)	3.8	(6.1)	50	雲角長石赤白	不良	にぶい黄	
4	須恵器	環	(12.0)	3.7	(5.8)	40	赤白針黒	普通	灰	南比企産
5	須恵器	環	(13.0)	3.9	6.0	50	石赤白針黒礫	普通	橙	南比企産
6	須恵器	環	(12.6)	4.2	(6.3)	20	白黒	普通	灰	体部外面「王」墨書
7	須恵器	環	-	(2.6)	(6.3)	15	白針	普通	灰	底部内面墨書 南比企産
8	須恵器	塊	(13.0)	5.4	(5.0)	45	白礫	良好	黄灰	
9	須恵器	塊	(13.8)	5.8	(5.9)	40	石赤黒礫	普通	にぶい黄橙	酸化焙焼成
10	須恵器	塊	14.7	5.9	6.9	75	砂赤白	不良	にぶい黄橙	「春」墨書 酸化焙焼成
11	須恵器	高台付塊	14.0	6.0	6.5	80	石赤礫	普通	明赤褐	体部内外面に油煙付着
12	須恵器	高台付皿	-	(2.7)	5.8	60	砂赤白	普通	橙	内面「十」墨書 酸化焙焼成
13	土師器	環	-	-	-	-	赤白針	普通	橙	墨書あり 酸化焙焼成 南比企産
14	灰軸陶器	高台付塊	(14.5)	4.7	(7.2)	40	白黒	普通	灰白	施輪ハケスリ 三日月高台 底部内面重ね焼き痕 浜北産
15	灰軸陶器	塊	(16.0)	(4.1)	-	15	黒	良好	灰	施輪ハケスリ 浜北産
16	灰軸陶器	高台付塊	-	(1.6)	6.5	50	黒	良好	灰白	施輪なし 浜北産
17	灰軸陶器	段皿	-	(2.7)	(6.8)	30	白黒	普通	灰白	施輪ハケスリ 浜北産
18	灰軸陶器	高台付皿	15.2	2.4	8.0	70	白黒	良好	灰白	施輪ハケスリ 一筆 底部内面重ね焼き痕 浜北産
19	灰軸陶器	長頸瓶	(8.4)	(1.8)	-	20	石黒	良好	灰	
20	土師器	甕	(13.5)	(4.4)	-	50	角石赤白	普通	にぶい赤褐	
21	土師器	甕	13.2	(7.5)	-	70	赤白	普通	にぶい橙	
22	土師器	甕	18.4	(6.5)	-	80	雲石赤白黒	普通	橙	
23	須恵器	甕	-	(6.1)	-	20	片石針	良好	灰	南比企産
24	須恵器	甕	-	(15.5)	(14.0)	25	白針黒	普通	灰黄	南比企産
25	石器	礫	縦4.4cm	横4.5cm	厚さ3.1cm	重さ38.6g	角閃石安山岩製			
26	土製品	土鉢	長さ(5.1)cm	最大径2.2cm		40	赤白黒	普通	灰黄	孔径0.6-0.7cm 重さ(12.5)g
27	鉄製品	雁股鎌	現存長(8.0)cm	鎌身幅(3.0)cm						先端・基部欠損

を測る。

北辺のカマド以东から住居跡の北東隅まで壁が粘土で覆われていた。

壁溝はほぼ全周するが、粘土で覆われていた北辺のカマドの東側とカマドの西側一部は確認されなかった。幅18～30cm、深さ7cmを測る。

カマドは第1次調査で発掘調査されており、燃焼部の掘形の規模は長軸87cm、幅70cmで、燃焼部の深さは床面より24cmで、煙道部は長さ95cm、幅70cm、深さ15～18cmを測る。

遺物は、第1次調査では須恵器環・埵・長頸壺、灰軸陶器皿、土師器甕、滑石製紡錘車が出土した。今回の調査では、須恵器環・埵・高台付碗・高台付皿・甕、灰軸陶器高台付埵・高台付皿、長頸瓶、土師器甕、土錘、角閃石安山岩製礫および鉄鍬が出土した。墨書土器が6点出土しており、須恵器埵底部内面と埵体部外面に「王」の墨書のもの、須恵器碗体部外面に「春」の墨書のもの、須恵器埵底部内面に三本線の墨書のもの、埵体部外面に

不明であるが墨書のものがある。鉄鍬(27)は雁股鍬で雁股の先端と茎部が欠損している。

底部内面に墨書土器がある須恵器環(1)は南辺の壁溝際の須恵器甕(24)の上から出土した。

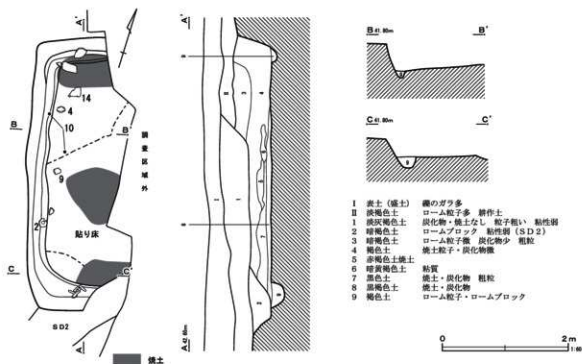
須恵器環(2)・埵(8・10)・高台埵(11)、土師器甕(22)、礫(25)、土錘(26)、雁股鍬(27)は床面から出土した。

### 第5号住居跡(第16・17図)

D-3グリッドに位置する。住居跡全体の1/3程度で、東側ほとんどが調査区域外となっている。住居跡の上部は近世の溝に切れ、住居跡南端は第2号溝と重複し切られて第2号溝の溝底が第5号住居跡の床面まで達していたが、住居跡の壁溝は確認できた。西辺を基準とすると主軸方位は、N-18°-Wを指す。規模は西辺4.24m、確認できた北辺は1.05m、南辺は0.5m、最も東側が確認できたのは西辺から1.6m程で、深さ44cmを測る。

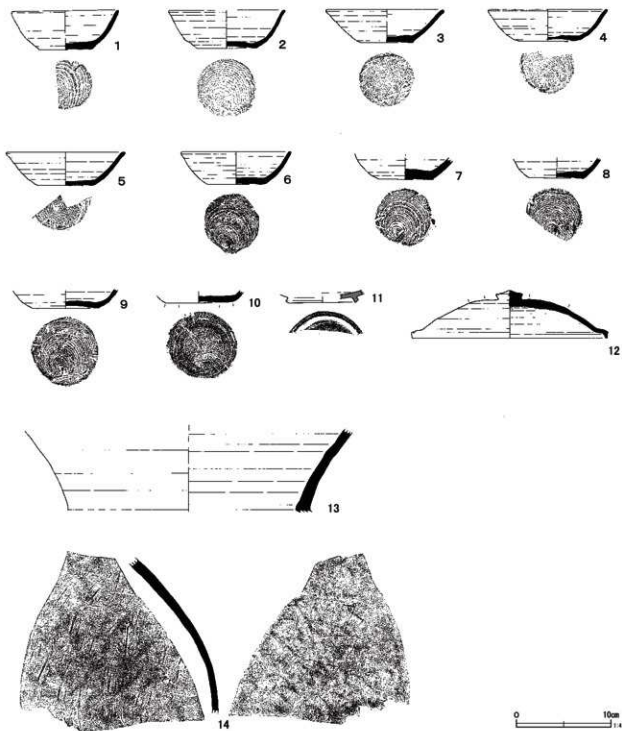
住居跡の床面3箇所に焼土範囲が検出された。

壁溝は確認できた範囲では全周し、幅29～47cm、



第16図 第5号住居跡





第17図 第5号住居跡出土遺物

深さ12~22cmを測る。

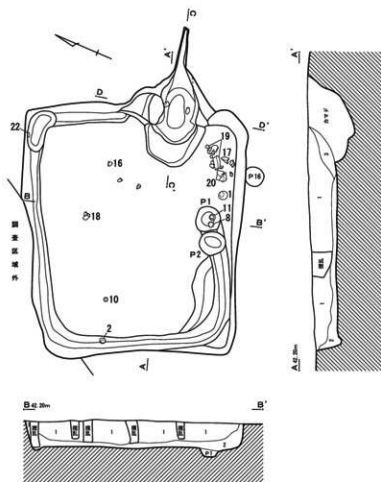
カマドは検出されなかった。

住居跡の1/3程度の範囲ではあったが、遺物は

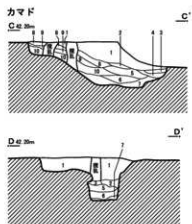
比較的多く、須恵器坏・埴・蓋・甕、灰釉陶器高台付埴が覆土より出土した。

第6表 第5号住居跡出土土器観察表 (第17図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	(11.2)	4.0	(5.5)	50	石砂白黒	普通	灰	
2	須恵器	坏	12.2	4.0	6.2	75	石白黒耀	普通	灰白	
3	須恵器	坏	(12.2)	3.5	5.5	50	白針	良好	灰	南比企産
4	須恵器	坏	(12.4)	3.3	(6.2)	50	白針黒耀	普通	灰	南比企産
5	須恵器	坏	(12.4)	3.5	(5.7)	45	白黒耀	普通	灰	
6	須恵器	坏	(11.5)	3.4	6.0	40	砂白針耀	普通	灰	南比企産
7	須恵器	坏	-	(2.7)	5.8	40	赤白針	普通	にぶい黄橙	南比企産
8	須恵器	坏	-	(2.2)	5.8	50	砂赤白針	普通	灰白	南比企産
9	須恵器	壺	-	(1.9)	6.9	75	砂赤白針	普通	灰	南比企産
10	須恵器	壺	-	(1.1)	7.0	80	白針耀	良好	灰	南比企産
11	灰軸陶器	高台付埴	-	(1.2)	(7.0)	30	石白黒	良好	灰黄	施軸なし 浜北産
12	須恵器	蓋	(20.4)	5.0	-	50	赤白耀	普通	灰赤	天井部外面回転ヘラ削り
13	須恵器	甕	-	(8.6)	-	-	白	普通	にぶい黄	
14	須恵器	甕	-	-	-	-	赤白黒	普通	灰白	



第18図 第6号住居跡



- 1 黒色土 焼土粒子微 炭化物 粗粒 粘性強
- 2 暗褐色土 炭化物 粘性強 締まり強
- 3 淡茶褐色土 焼土・粘土・炭化物多 やや軟質

カマド

- 1 暗褐色土 ロームブロック・粒子やや多  
焼土ブロック 炭化物粒子微
- 2 暗茶褐色土 ロームブロック・焼土ブロック・灰  
焼土粒子多 粘土主体
- 3 黒褐色土 ロームブロック・焼土ブロック少
- 4 黒褐色土 焼土粒子・焼土ブロック種多
- 5 明褐色土 ロームブロック・焼土ブロック種多  
(天井の崩落)
- 6 明褐色土 ロームブロック・焼土ブロック  
炭化物粒子少
- 7 黒褐色土 焼土ブロックやや多 炭化物粒子少  
粘性有
- 8 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多  
粘性 締まり強
- 9 明淡褐色土 焼土ブロック 粘性弱 締まり強  
(天井の崩落)
- 10 暗褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子  
灰やや多

0 2 m

第6号住居跡 (第18～20図)

A・B-4グリッドに位置する。北辺側が調査区域外になっているが、住居跡全体を調査できた。東辺にカマドをもち、平面形は長方形を呈する。主軸方位は、N-66°-Eを指す。規模は長軸3.76m、南北4.48m、深さ39cmを測る。

壁溝はカマドがある東辺のカマド以南から南辺の中央部までを除き全周し、幅約20～30cm、深さ5～7cmを測る。南辺の西半分の壁溝がある部分は床面が壁溝に向かい傾斜しており、この部分は床面は平坦でない。

また、南辺中央部の壁溝が切れるところで、ピット2基を検出した。P1はほぼ円形で径36cm×38cm、深さ9cm、P2は楕円形で長軸41cm、短軸34cm、深さ16cmほどを測る。

カマドは東辺南側に設置され、燃焼部は長軸

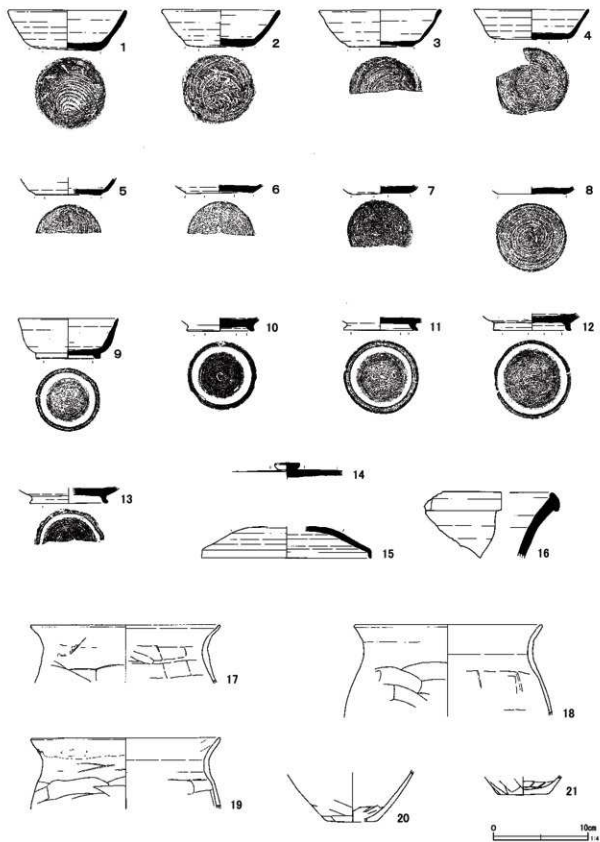
175cm、幅50cmで、深さは床面より30cm、煙道部は非常に狭長で長さ40cm、幅15cm、深さ20cmを測る。

カマドの燃焼部の2ヵ所から礫が出土した。燃焼部中央の両脇にあり覆土中位からの出土である。礫は両側に設置したカマドかけの施設とみられる。

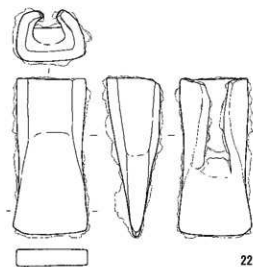
遺物はカマドの南及び南辺側に多く出土した。須恵器環・高台付環・高台付塊・蓋・甕、土師器甕、鉄斧と刀子が出土した。土師器甕(17・19・20)はカマド南側の床面からまともって出土した。須恵器環(2)は西辺壁溝上の住居跡覆土から、須恵器環(8)・高台付塊(11)もピット1からではなく、ピット1の上の住居跡覆土から出土した。鉄斧(22)は北東隅の壁溝内の、住居跡床面と同じ高さから出土した。

第7表 第6号住居跡出土遺物観察表 (第19・20図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	環	12.4	4.1	7.3	95	砂赤白黒	普通	黄灰	
2	須恵器	環	12.3	3.9	7.2	95	砂赤白針礫	普通	灰	南北企産
3	須恵器	環	(12.6)	3.9	6.9	40	赤白針	普通	灰赤	南北企産
4	須恵器	環	(12.0)	3.1	7.6	30	白針黒	普通	灰	南北企産
5	須恵器	環	-	(1.8)	(7.0)	30	赤白針	普通	灰	南北企産
6	須恵器	環	-	(0.9)	7.0	50	石赤白針	普通	灰白	南北企産
7	須恵器	環	-	(0.8)	(6.2)	60	砂白針	普通	灰	南北企産
8	須恵器	環	-	(0.8)	7.3	100	砂白針	普通	灰	南北企産
9	須恵器	高台付環	(10.4)	4.2	6.8	40	石白針	普通	灰	南北企産
10	須恵器	高台付環	-	(1.9)	7.0	95	白針黒	良好	灰	南北企産
11	須恵器	高台付塊	-	(1.8)	7.9	100	白針礫	良好	灰	南北企産
12	須恵器	高台付塊	-	(1.8)	8.2	95	赤白針黒	普通	灰	南北企産
13	須恵器	高台付塊	-	(1.7)	(8.3)	40	石砂白針	普通	灰	南北企産
14	須恵器	蓋	-	(1.5)	-	30	白針	普通	灰	南北企産
15	須恵器	蓋	(18.0)	(3.3)	-	15	白針礫	普通	灰	南北企産
16	須恵器	甕	-	-	-	-	白針	良好	灰	南北企産
17	土師器	甕	(20.0)	(6.2)	-	20	雲角赤白	普通	橙	
18	土師器	甕	(20.0)	(9.7)	-	20	角赤白黒	普通	にぶい橙	
19	土師器	甕	(19.8)	(7.5)	-	50	角赤白黒	普通	明赤褐	
20	土師器	甕	-	(5.5)	5.4	40	角赤白	普通	にぶい褐	
21	土師器	甕	-	(2.9)	5.0	90	赤白	普通	にぶい橙	底部外面一方向ヘラナデ
22	鉄製品	斧	全長8.3cm	刃幅3.9cm	重さ162.9g					柄装着部折り曲げ
23	鉄製品	刀子	現存長(3.4)cm	刃幅(最大)0.7cm	背幅0.2cm	重さ(2.1)g				切先片



第19圖 第6号住居跡出土遺物 (1)



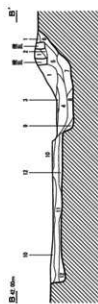
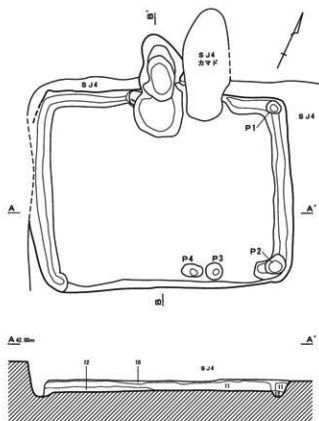
22



23



第20図 第6号住居跡出土遺物(2)



- |    |       |                                  |
|----|-------|----------------------------------|
| 1  | 明褐色土  | 焼土ブロック少                          |
| 2  | 黒褐色土  | ローム粒子・焼土粒子少                      |
| 3  | 黒褐色土  | ロームブロック                          |
| 4  | 暗褐色土  | 焼土ブロックやや多<br>ロームブロック・<br>焼土粒子    |
| 5  | 赤褐色焼土 | 焼土粒子 炭化物少<br>締まり強                |
| 6  | 淡茶褐色土 | ロームブロック・<br>ローム粒子・焼土粒子           |
| 7  | 褐色土   | 焼土粒子                             |
| 8  | 黒褐色土  | 焼土強 粘性強<br>締まり強 炭                |
| 9  | 黒褐色土  | 炭化物粒子・<br>焼土粒子やや多 粘性             |
| 10 | 暗褐色土  | ローム粒子<br>ロームブロック                 |
| 11 | 淡黄褐色土 | ローム粒子多 締まり強<br>ロームブロック・<br>ローム粒子 |
| 12 | 暗褐色土  | 焼土粒子・<br>焼土ブロック少<br>締まり強         |



第21図 第8号住居跡

### 第8号住居跡 (第21・22図)

町教育委員会の昭和63年度の第1次発掘調査で2号住居跡の付け替え前のカマドであると推定していたもので、今回の調査で第4号住居跡以前の住居跡のカマドであることが判明した。

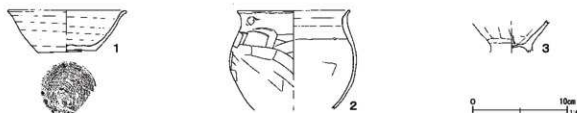
C-3・4グリッドに位置する。第4号住居跡と重複し、住居跡壁の上部が切られ特に西辺は第4号住居跡に壊され不明瞭であった。北辺にカマドを持ち平面形は長方形を呈する。主軸方位は、N-25°-Eを指す。規模は主軸3.10m、東西4.10m、深さ38cmを測る。

壁溝は南辺を除いて全周し、幅約25~31cm、深さ5~10cmを測る。

ピットは4基確認できた。いずれも壁際に設けられている。P1・P2は東辺の住居跡隅の壁溝内の北東隅と南東隅にあり、P3・P4は南辺際にある。P1はやや楕円形気味で、長軸25cm、短軸20cm、深さ12cmを測る。P2も楕円形気味で、長軸33cm、短軸28cm、深さ9cmを測る。P3は円形で、径26cm×27cm、深さ25cmを測る。P4は楕円形で、長軸35cm、短軸20cm、深さ41cmを測る。

カマドは北辺ほぼ中央に設けられ、燃焼部は長軸125cm、幅75cmで、深さは床面より16cmで、煙道部は長さ51cm、幅70cm、深さ30cmである。

遺物は、酸化焰焼成の須恵器杯、土師器台付甕が出土した。



第22図 第8号住居跡出土遺物

第8表 第8号住居跡出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	杯	12.2	4.5	6.1	70	砂赤白針	普通	にぶい橙	酸化焰焼成
2	土師器	台付甕	11.8	10.5	-	70	角砂赤黒	普通	にぶい赤褐	
3	土師器	台付甕	-	(3.5)	-	30	雲赤白	普通	にぶい褐	

## 2. 土壌

### 第1号土壌 (第23図)

C-3グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径85cm×96cm、深さ25cmを測る。

### 第2号土壌 (第23図)

C-3グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径76cm×82cm、深さ22cmを測る。

### 第3号土壌 (第23図)

C-2グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径82cm×92cm、深さ14cmを測る。

遺物は、図示できるものはないが、須恵器杯と甕が出土した。

### 第4号土壌 (第23図)

B-4グリッドに位置する。平面形は長方形を呈し、主軸方位は、N-46°-Wを指す。規模は長さ230cm、幅97cm、深さ33cmを測る。

遺物は、図示できるものはないが、須恵器片・土師器片が出土した。

### 第5号土壌 (第23図)

B-4・5グリッドに位置する。第6・7号土壌と重複している。第6号土壌に切られ、第7号土壌を掘り込んでいる。平面形は不整形で、長軸方位は、N-0°-Eを指す。規模は170cm、確認できた東西は135cm、深さ32cmを測る。

### 第6号土壌 (第23図)

B-4グリッドに位置する。第5・7号土壌と重複し、両土壌を切っている。平面形は不明である。確認できた規模は東西67cm、南北46cm、深さ23cmを測る。

### 第7号土壌 (第23図)

B-4グリッドに位置する。第5・6号土壌と重複し、両土壌に掘り込まれている。平面形は不明で、規模は東西275cm、南北50cm、深さ17~47cmを測る。

### 第8号土壌 (欠番)

### 第9号土壌 (第23図)

C-4グリッドに位置する。平面形は楕円形を

呈し、主軸方位はN-50°-Wを指す。規模は長軸100cm、短軸85cm、深さ27cmを測る。

遺物は、図示できるものはないが、須恵器片・甕が出土した。

### 第10号土壌 (第23図)

C-4グリッドに位置する。C-4グリッドピット36により北西側が切られている。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-50°-Eを指す。規模は長軸116cm、短軸93cm、深さ21cmを測る。

### 第11号土壌 (第23・26図)

C-4グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-40°-Wを指す。規模は長軸133cm、短軸90cm、深さ22cmを測る。

遺物は、須恵器杯底部、土師器片が出土した。

### 第12号土壌 (第23図)

C-4グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-75°-Wを指す。規模は長軸126cm、短軸105cm、深さ30cmを測る。

### 第13号土壌 (第23図)

C-4グリッドに位置する。C-4グリッドピット33・34・35が噴底を掘り込んでいる。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-40°-Wを指す。規模は長軸210cm、短軸171cm、深さ25cmを測る。

遺物は、縄文土器細片が出土した。

### 第14号土壌 (第24図)

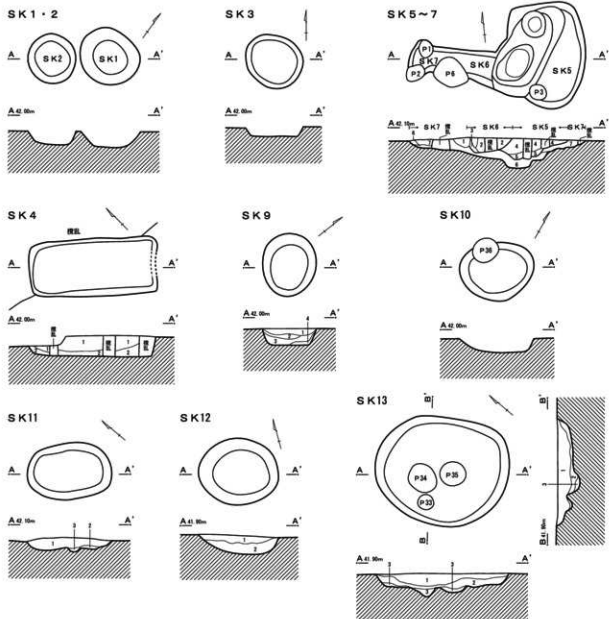
C-4グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径80cm×90cm、深さ14cmを測る。

遺物は、図示できるものはないが、土師器が出土した。

### 第15号土壌 (第24図)

C-4グリッドに位置する。第16号土壌と重複し、この土壌を切っている。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-40°-Wを指す。規模は長軸83cm、短軸70cm、深さ18cmを測る。

遺物は、図示できないが、須恵器杯底部が全面回転ヘラケズリされているものが出土した。



- SK 4  
 1 黒褐色土 ロームブロック 炭化物粒子・焼土粒子微 粘性 締まりなし  
 2 黒褐色土 ロームブロックやや多 炭化物粒子微 粘性 締まりなし

- SK 5~7  
 1 黒褐色土 焼土粒子・ロームブロック少  
 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック  
 3 明褐色土 粘土ブロック  
 4 褐色土 焼土粒子・ロームブロック・ローム粒子  
 5 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子  
 6 淡黄褐色土 ローム主体 炭化物粒子少 暗褐色土  
 7 淡黄褐色土 ローム主体 焼土粒子・炭化物粒子微

- SK 9  
 1 黒褐色土 ローム粒子・ブロック 焼土粒子少  
 2 暗赤褐色土 ローム粒子・ブロックやや多  
 3 黒褐色土 ロームブロック少 焼土粒子・炭化物粒子微  
 4 淡黄褐色土

- SK 11  
 1 黒褐色土 ロームブロック少 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子  
 2 明褐色土 ローム粒子・炭化物粒子やや多 締まりやや有  
 3 暗褐色土 ロームブロックやや多

- SK 12  
 1 暗褐色土 ロームブロックやや多 焼土粒子微  
 2 淡黄褐色土 ロームブロック多 焼土粒子微

- SK 13  
 1 暗褐色土 ロームブロック  
 2 明褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多  
 3 淡黄褐色土 ローム主体 ロームブロック多 炭化物粒子微

第23図 土壌 (1)



#### 第16号土壌 (第24図)

C-4グリッドに位置する。第15・45号土壌と重複し、北東部が第15号土壌に、南東部が第45号土壌に切られている。平面形は楕円を呈し、主軸方位はN-13°-Eを指す。規模は長軸107cm、短軸77cm、深さ24cmを測る。

#### 第17号土壌 (第24図)

C-4グリッドに位置する。北西部が削平され不明である。平面形は楕円形を呈すると推定され、主軸方位はN-37°-Eを指す。確認できた規模は長軸154cm、短軸52cm、深さ25cmを測る。

遺物は、図示できないが、須恵器蓋、土師器が出土した。

#### 第18号土壌 (第24図)

B・C-4グリッドに位置する。第26号土壌と重複し、この土壌を切っている。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-72°-Wを指す。規模は長軸132cm、短軸102cm、深さ22cmを測る。

遺物は、図示できないが、須恵器環・蓋、土師器が出土した。

#### 第19号土壌 (欠番)

#### 第20号土壌 (第24図)

B-4グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-0°-Eを指す。規模は長軸85cm、短軸68cm、深さ25cmを測る。

#### 第21号土壌 (第24図)

B-4グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-43°-Eを指す。規模は長軸131cm、短軸110cm、深さ21cmを測る。

#### 第22号土壌 (第24図)

B-4グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-38°-Eを指す。規模は長軸75cm、短軸63cm、深さ12cmを測る。

#### 第23号土壌 (第24図)

B-4グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-31°-Wを指す。規模は長軸85cm、短軸75cm、深さ9cmを測る。

#### 第24号土壌 (第24図)

C-5グリッドに位置する。第37号土壌と重複し、この土壌を切っている。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-56°-Wを指す。規模は長軸88cm、短軸74cm、深さ20cmを測る。

#### 第25号土壌 (第24図)

B-4グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径80cm×85cm、深さ12cmを測る。

#### 第26号土壌 (第24図)

B-4グリッドに位置する。第18号土壌と重複し、この土壌に切られている。平面形は円形を呈し、規模は径90cm×94cm、深さ17cmを測る。

#### 第27号土壌 (第25図)

C-4グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-28°-Eを指す。規模は長軸95cm、短軸79cm、深さ22cmを測る。

#### 第28号土壌 (第25図)

C-4グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-4°-Wを指す。規模は長軸122cm、短軸76cm、深さ14cmを測る。

#### 第29号土壌 (欠番)

#### 第30号土壌 (第25図)

C-4グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径69cm×73cm、深さ13cmを測る。

#### 第31号土壌 (第25図)

C-4グリッドに位置する。北壁際にC-4グリッドビット41が壙底を掘り込んでいる。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-13°-Wを指す。規模は長軸94cm、短軸62cm、深さ15cmを測る。

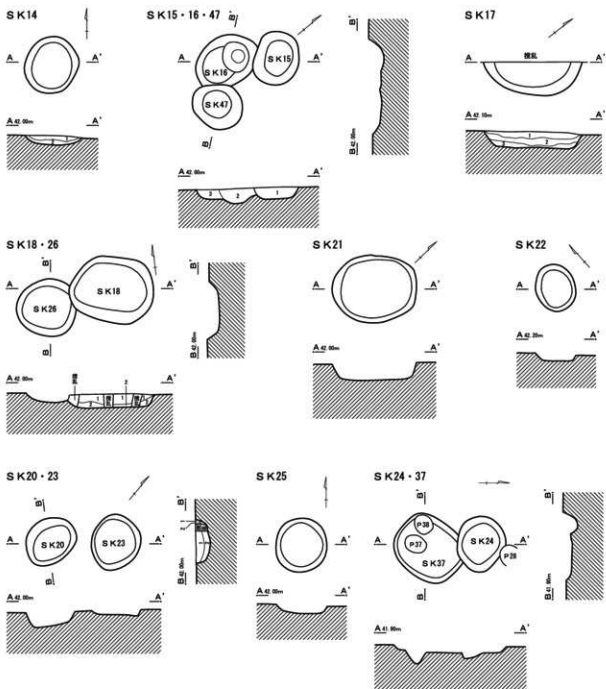
遺物は、図示できないが、土師器台付壺が出土した。

#### 第32号土壌 (第25図)

C-4グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径80cm×85cm、深さ17cmを測る。

#### 第33号土壌 (第25図)

C-4グリッドに位置する。C-4グリッドビット13・14に壙底が掘り込まれている。平面形は



SK14  
 1 黒褐色土 ローム粒子・糞土粒子  
 2 明褐色土 ローム主体 ロームブロック・糞土粒子・炭化物粒子

SK15・16  
 1 黒褐色土 ロームブロック少 糞土粒子・炭化物粒子  
 2 暗褐色土 ローム粒子や中多 炭化物粒子微  
 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック

SK17  
 1 黒褐色土 ロームブロック少 炭化物粒子・糞土粒子  
 2 明褐色土 ロームブロックや中多 炭化物粒子少  
 3 淡黄褐色土 ローム主体 ロームブロック多

SK18  
 1 黒褐色土 ロームブロック・粒子少 糞土粒子・炭化物粒子  
 2 暗褐色土 ロームブロックや中多

SK20  
 1 黒褐色土 ロームブロック少 糞土粒子・炭化物粒子微  
 2 暗褐色土 ローム粒子多 ロームブロック

第24図 土壌 (2)

円形を呈し、規模は径76cm×85cm、深さ13cmを測る。

#### 第34号土壙 (第25図)

C-4グリッドに位置する。C-4グリッドビット10が壙底を掘りこんでいる。平面形は円形を呈し、規模は径84cm×94cm、深さ24cmを測る。

#### 第35号土壙 (第25図)

C-4グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径75cm、深さ13cmを測る。

#### 第36号土壙 (第25図)

C-4グリッドに位置する。第4号住居跡・第40号土壙と重複し、土壙に切られているが、住居跡との関係は不明である。平面形は楕円形を呈すると推定され、確認できた規模は東西125cm、南北100cm、深さ26cmを測る。

遺物は、図示できないが、須恵器坏壺片が出土した。

#### 第37号土壙 (第24図)

C-5グリッドに位置する。第24号土壙と重複し北隅が切られ、C-5グリッドビット37・38が壙底を掘りこんでいる。平面形は隅丸長方形を呈し、主軸方位はN-44°-Eを指す。規模は長さ110cm、幅95cm、深さ11cmを測る。

#### 第38号土壙 (第25図)

B-4・5グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径91cm×94cm、深さ20cmを測る。

遺物は、図示できないが縄文土器細片が出土した。

#### 第39号土壙 (第25図)

C-6グリッドに位置する。南西側が調査区域外となっている。平面形は長方形を呈し、主軸方位はN-51°-Eを指す。規模は確認できた長さ139cm、幅71cm、深さ12cmを測る。

#### 第40号土壙 (第25図)

C-4グリッドに位置する。第36号土壙と重複し、切っている。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-66°-Eを指す。規模は長軸88cm、短軸66

cm、深さ27cmを測る。

#### 第41号土壙 (第25図)

A-4グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径72cm×75cm、深さ12cmを測る。

#### 第42号土壙 (第25図)

A-4・5グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径73cm×85cm、深さ18cmを測る。

#### 第43号土壙 (第25図)

A-4グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径67cm×72cm、深さ8cmを測る。

#### 第44号土壙 (第25図)

C-4グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-49°-Wを指す。規模は長軸94cm、短軸64cm、深さ19cmを測る。

#### 第45号土壙 (第25図)

B-4グリッドに位置する。第46号土壙と重複して切っており、B-4グリッドビット7に西側が切られている。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-25°-Eを指す。規模は長軸120cm、確認できた短軸92cm、深さ22cmを測る。

#### 第46号土壙 (第25図)

C-4グリッドに位置する。北隅が45号土壙と重複して切れ、西辺の一部がC-4グリッドビット12により切られている。平面形は楕円形を呈すると推定され、主軸方位はN-22°-Eを指す。規模は確認できた長軸98cm、短軸135cm、深さ20cmを測る。

#### 第47号土壙 (第24図)

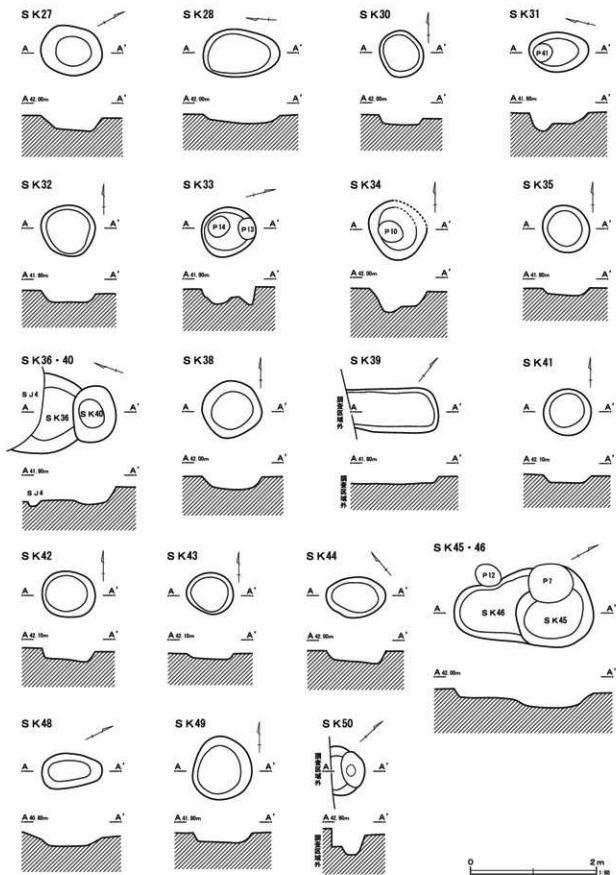
C-4グリッドに位置する。第16号土壙と重複して切っている。平面形はほぼ円形を呈し、規模は径71cm×79cm、深さ16cmを測る。

#### 第48号土壙 (第25図)

D-5グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方位はN-26°-Eを指す。規模は長軸95cm、短軸53cm、深さ12cmを測る。

#### 第49号土壙 (第25図)

D-3グリッドに位置する。平面形はほぼ円形



第25图 土坑 (3)

を呈し、規模は径91cm×101cm、深さ15cmを測る。

#### 第50号土壇（第25図）

C-6グリッドに位置する。南西側が調査区域外となり、北東側はビット状となり深くなっている。平面形は円形と推定され、確認できた規模は径79cm×53cm以上、深さ18cmを測る。ビットは楕円形を呈し、長軸54cm、短軸38cm、深さ30cmを測る。



第26図 第11号土壇出土遺物

第9表 第11号土壇出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	環	-	(1.2)	6.0	55	砂白針	普通	灰	火障痕 南比企産

### 3. 溝跡

#### 第1号溝（第27・28図）

C・D-4・5グリッドに位置する。北東部は調査区域外に延び、南部で第2号溝と合流するが、先後関係は不明である。走行方位はN-21°-Eを指し、北部でN-31°-E方向へと曲がる。規模は全長約47mが確認でき、幅0.73~0.10m、深さ0.08~0.39mを測る。

遺物は、灰軸陶器高台付埴・陶器鉢の他、図示できないが須恵器環・甕、陶器の摺鉢が出土した。

#### 第2号溝（第27図）

C・D-3・4グリッドに位置する。北部で調査区域外に延び、第4・5号住居跡と重複して切っているが、溝底は第5号住居跡の床面と同じ高さで南壁を壊している。南部は第1号溝と合流するが、第2号溝が第1号溝より浅く先後関係は不明である。走行方位はN-2°-Wを指し、北部でN-36°-E方向へと曲がる。規模は全長約15.7mが確認でき、幅0.47~1.43m、深さ0.20~0.35mを測る。

#### 第3号溝（第29・30図）

C-2グリッドに位置する。走行方位はN-50°-Wを指す。北西部・南東部ともに調査区域

外に延びる。規模は全長約7.85mが確認でき、幅0.8~0.93m、深さ0.35mを測る。

遺物は、須恵器環・甕、灰軸陶器高台付埴の他に、図示できないが瓦質甕を出土した。

#### 第4号溝（第32図）

D-4・5グリッドに位置する。北東部は調査区域外へ延び、南西部の範囲は確認できなかった。第9号溝と並走して切りあう。走行方位はN-34°-Eを指す。規模は全長3.0mが確認でき、幅0.75~0.90m、深さ0.22mを測る。

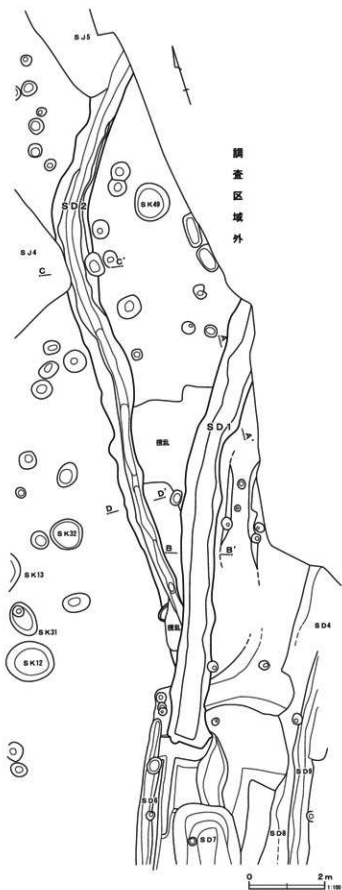
遺物は図示できないが、陶器片・瓦質甕片が出土した。

#### 第5号溝（第31図）

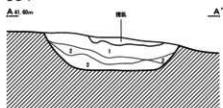
A-4グリッドに位置する。北西部は調査区域外へ延びている。走行方位はN-48°-Wを指す。規模は全長2.45mが確認でき、幅0.35~0.60m、深さ0.05~0.60mを測る。

#### 第6号溝（第32図）

C-5・6グリッドに位置する。南部は調査区域外へ延びている。第7号溝と並走して切り合う。走行方位はN-18°-Eを指す。規模は全長19.5mが確認でき、幅0.90~1.88m、深さ0.13mを測る。



SD 1



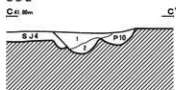
B-B'



SD 1

- 1 暗褐色土 ロームブロック
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ブロック・酸化鉄  
粘性有 崩まり強
- 3 褐色土 ロームブロック・ローム粒子多

SD 2



D-D'

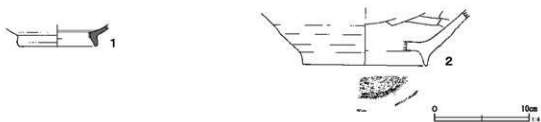


SD 2

- 1 黒褐色土 ロームブロックやや多 焼土粒子少
- 2 暗褐色土 ロームブロック多



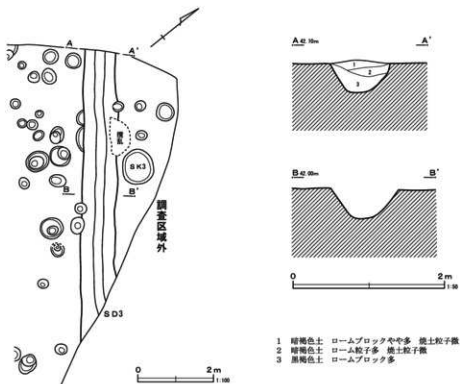
第27図 第1・2号溝



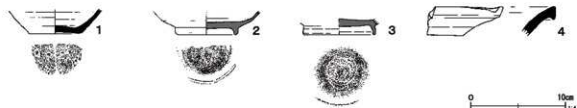
第28図 第1号溝出土遺物

第10表 第1号溝跡出土遺物観察表 (第28図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	灰軸陶器	高台付埴	-	(2.3)	(8.0)	20	白黒	良好	灰白	底部内面重ね焼き痕 施軸ハケスリ 浜北産
2	陶器	鉢	-	(6.0)	(13.0)	20	石赤白黒	普通	灰	外面指・ヘラナデ、ヘラ沈線 在地産



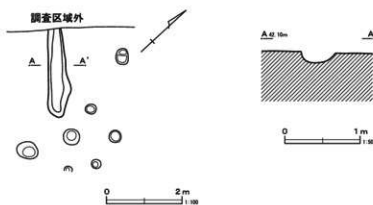
第29図 第3号溝



第30図 第3号溝出土遺物

第11表 第3号溝跡出土遺物観察表 (第30図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	-	(2.6)	5.6	45	白針黒	普通	暗灰黄	南比企産
2	灰輪陶器	高台付埴	-	(2.5)	(6.0)	40	白黒	良好	灰白	輪軸なし 浜北産
3	灰輪陶器	高台付埴	-	(1.7)	(7.4)	70	白黒	良好	灰白	輪軸なし 浜北産
4	須恵器	甕	-	(3.0)	-	-	白黒	良好	灰	



第31図 第5号溝

#### 第7号溝 (第32・33図)

C-5・6グリッドに位置する。南部は調査区域外へ延びている。走行方位はN-15°-Eを指す。規模は全長10.3mが確認でき、幅1.10~1.64m、深さ0.25~0.55mを測る。

遺物は、須恵器甕、陶器鉢の他に、図示できないが須恵器坏が出土した。

#### 第8号溝 (第32・33図)

C・D-5グリッドに位置する。第9号と並走し切り切っている。北部の範囲は確認できなかった。走行方位はN-20°-Eを指す。規模は全長

6.4m確認でき、幅0.35~0.47m、深さ0.15~0.41mを測る。

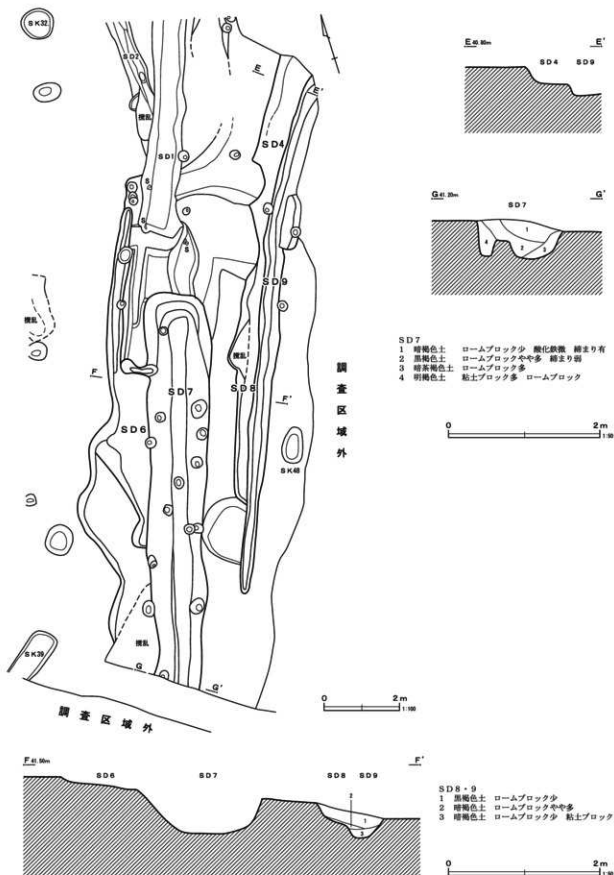
遺物は、凝灰岩製の砥石が出土した。

#### 第9号溝 (第32・33図)

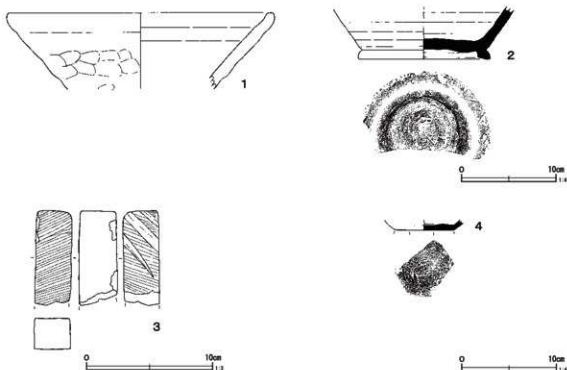
C-5・6、D-4・5グリッドに位置する。北部は調査区域外へ延びている。第4・8号溝と並走し切り切っている。走行方位はN-23°-Eを指す。規模は全長13.8mが確認でき、幅0.33~0.55m、深さ0.04~0.24mを測る。

遺物は、須恵器坏が出土した。





第32図 第4・6・9号溝



第33図 第7～9号溝出土遺物

第12表 第7～9号溝跡出土遺物観察表 (第33図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	陶器	鉢	(14.0)	(8.0)	-	15	赤黒	普通	にぶい褐	SD7 口縁部内外面ロクロナデ 体部外面指頭押さえ
2	須恵器	甕	-	(5.6)	(13.9)	40	白黒	普通	灰	SD7 口縁部内外面ロクロナデ
3	石器	砥石	縦(7.4)cm	横3.0cm	厚さ2.8cm		重さ(107.7)g	凝灰岩製		SD8
4	須恵器	坏	-	(1.1)	6.2	60	白針黒	普通	灰	SD8・9 南比企産

#### 4. ピット (第34・35図)

調査区内からは、ピットと呼ばれる小穴状の遺構が多数検出され、調査区全体に分布している。その多くが住居跡や掘立柱建物跡に使用されていた可能性もあるが、調査において帰属が不明であったためピットとして報告する。

また、ピットは時期が不明のものがほとんどであることから、ここでは一括している。

ピットはグリッドごとに番号を1から付している。図示したものも含めて、ピットの形状・計測値についてはピット計測表(第13～15表)に記載してある。欠番は、1次調査区内にあるものであ

る。

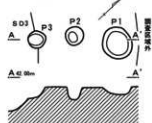
ピットからの出土遺物は、小破片で図示できるものはなかったが、

C-2グリッド	ピット2	須恵器蓋
	ピット4	須恵器坏
	ピット7	土師器
	ピット12	須恵器坏
	ピット23	縄文土器
	ピット24	須恵器坏
	ピット40	須恵器坏

が出土した。

C-2g

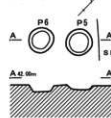
P1~3



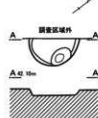
P4



P5・6



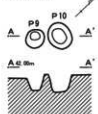
P7



P8



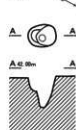
P9・10



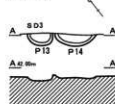
P11



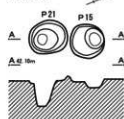
P12



P13・14



P15・21



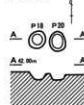
P16



P17



P18・20



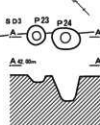
P19



P22



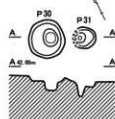
P23・24



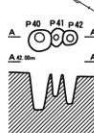
P29



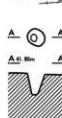
P30・31



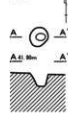
P40~42



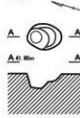
P44



P53

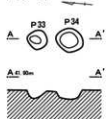


P59

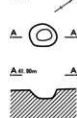


C-3g

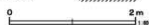
P33・34



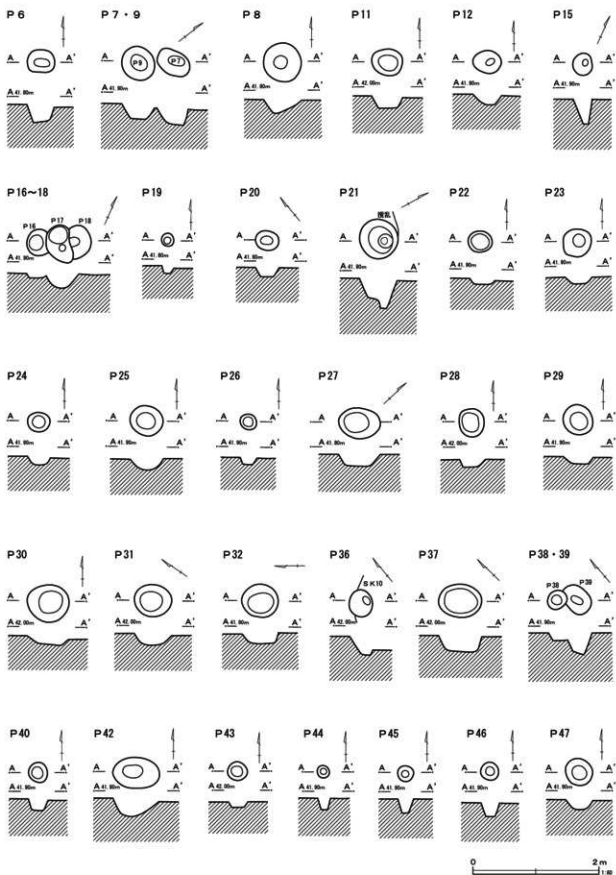
P36



P39



第34図 ビット (1)



第35図 ビット (2)

第13表 ビット計測表 (1)

グリッド	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	グリッド	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
A-4	1	方形	58	48	17	B-4	10	円形	36	35	26
	2	円形	21	20	2		11	楕円形	70	62	19
	3	円形	34	33	16		12	円形	43	33	11
	4	楕円形	42	32	11~18		13	円形	36	35	16
	5	円形	35	35	59		14	円形	21	19	19
	6	円形	30	28	40		15	楕円形	32	28	31
	7	円形	56	56	14		16	円形	31	31	15
	8	楕円形	35	26	14		17	円形	22	21	23
	9	円形	32	32	15		18	円形	42	40	10
	10	円形	31	26	8		19	楕円形	29	27	38
	11	円形	33	32	5		20	円形	38	36	23
	12	円形	44	42	12		21	円形	52	49	15
	13	円形	14	14	13		22	円形	24	22	11
	14	円形	53	51	12		23	円形	21	21	24
	15	円形	22	21	31		24	楕円形	42	34	9
	16	円形	31	30	13		25	楕円形	55	44	20
	17	円形	25	23	23		26	円形	31	28	9
	18	楕円形	57	45	13		27	円形	31	30	16
	19	楕円形	27	20	6		28	円形	38	34	11
	20	楕円形	38	30	12		29	円形	39	37	19
A-5	1	楕円形	27	18	12	30	円形	50	44	9	
	2	円形	66	62	34	31	円形	58	56	17	
	3	円形	72	58	18	32	楕円形	69	60	10~18	
	4	円形	35	33	13	B-5	1	楕円形	88	66	21
	5	円形	31	28	23		2	楕円形	34	25	22~32
	6	楕円形	34	28	16		3	円形	22	19	31
	7	円形	25	23	16		4	円形	44	43	16~35
	8	円形	32	30	7		5	円形	24	20	13
	9	円形	25	21	6		6	円形	20	18	17
	10	楕円形	45	38	6		7	円形	24	19	11
	11	楕円形	55	47	19		8	円形	24	23	10
	12	円形	25	24	8		9	円形	29	28	20
	13	楕円形	29	23	8~17		10	楕円形	52	37	13
	14	円形	28	27	22		11	円形	32	30	17~22
	15	円形	44	41	3		12	円形	44	42	9
	16	楕円形	43	30	11		13	円形	35	34	15
	17	楕円形	81	61	6		14A	楕円形	56	38	29
	18	不明	17	(27)	22		14B	楕円形	36	24	19
	19	円形	28	24	20		15	円形	50	50	15
	20	(円形)	68	(31)	26		16	円形	56	52	16
B-3	39	楕円形	38	33	21		17	円形	68	65	21
	40	(円形)	41	(25)	5~17		18	円形	33	31	17
	44	楕円形	34	29	30		19	円形	29	28	8
	45	円形	42	37	6	20	楕円形	30	24	30	
	46	円形	39	38	9	21	円形	45	44	10	
	49	円形	23	21	26	22	円形	50	45	16	
	B-4	1	楕円形	29	20	41	23	楕円形	42	30	13
2		楕円形	31	23	25~34	24	楕円形	33	27	14	
3		円形	28	25	28	25	円形	20	20	12	
4		円形	30	28	16	26	不整形	58	(31)	12	
5		円形	32	30	40	27	円形	46	38	21	
6		不整形	53	44	23	28	円形	37	(37)	23	
7		円形	57	52	17	29	円形	45	43	26	
8		楕円形	53	36	45	30	円形	34	34	19	
9		不整形	36	37	52	31	楕円形	46	40	15	

第14表 ビット計測表 (2)

グリッド	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	グリッド	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
B-5	32	円形	28	27	6	C-4	20	楕円形	37	31	14
	33	楕円形	49	39	11		21	円形	63	61	29~45
	34	円形	44	41	13		22	円形	38	34	8
C-2	1	円形	49	47	12		23	円形	49	45	11
	2	円形	29	27	20		24	円形	36	31	13
	3	円形	29	27	18		25	円形	52	49	17
	4	楕円形	31	25	13		26	円形	25	25	11
	5	円形	42	40	7		27	楕円形	66	48	18
	6	円形	41	39	11		28	楕円形	43	40	12
	7	(円形)	79	(43)	10		29	円形	49	45	11
	8	円形	20	20	16		30	円形	65	59	10
	9	円形	30	28	23		31	楕円形	59	50	17
	10	楕円形	42	36	28		32	円形	57	52	16
	11	円形	21	19	16		33	楕円形	26	23	15
	12	楕円形	44	35	23~49		34	楕円形	46	40	11
	13	(円形)	40	(14)	8		35	円形	39	41	13
	14	(円形)	64	(17)	5		36	円形	43	37	29
	15	円形	54	53	6~15		37	楕円形	67	52	24
	16	円形	33	30	10		38	円形	33	29	13
	17	円形	28	26	10		39	楕円形	50	37	34
	18	円形	26	26	11		40	円形	31	30	18
	19	円形	27	24	21		41	円形	30	31	15
	20	楕円形	31	25	9		42	楕円形	73	49	27
	21	楕円形	60	55	6~44		43	円形	32	28	9
	22	楕円形	43	33	15		44	円形	20	19	18
	23	円形	31	28	11		45	円形	25	24	22
	24	楕円形	44	33	39		46	円形	30	28	21
	29	円形	28	26	18	47	円形	44	42	15	
	30	円形	61	57	7~21	C-5	1	楕円形	60	52	17
	31	楕円形	(37)	34	8~24		2	円形	24	22	9
	40	円形	35	34	57		3	円形	25	21	10
	41	楕円形	28	18	35		4	円形	43	40	11
42	円形	23	23	44	5		円形	35	32	13	
44	楕円形	28	24	34	6		円形	30	29	13	
53	楕円形	30	27	20	7		楕円形	46	36	6	
58	円形	39	35	16	8		円形	23	22	8	
59	楕円形	54	41	11~24	9		円形	31	28	14	
C-3	33	円形	31	30	13		10	円形	29	26	3
	34	楕円形	42	37	15		11	不整形	52	47	15
	36	楕円形	44	37	15		12	円形	43	36	14
	39	円形	30	27	21		13	楕円形	38	27	12
C-4	6	方形	42	35	28		14	円形	35	28	22
	7	楕円形	54	38	26		15	楕円形	40	30	22
	8	円形	61	59	22		16	円形	24	23	10
	9	円形	55	49	21		17	円形	29	27	-
	10	楕円形	41	32	14		18	円形	27	26	22
	11	円形	48	42	19		19	円形	35	32	16
	12	円形	45	36	15	20	楕円形	45	36	20	
	13	楕円形	35	27	30	21	円形	30	29	17	
	14	楕円形	35	30	8	22	円形	24	23	14	
	15	楕円形	35	32	40	23	楕円形	44	39	17	
	16	楕円形	42	(30)	7	24	楕円形	36	28	11	
	17	不整形	61	37	22	25	楕円形	58	49	25	
	18	円形	49	(34)	1	26	円形	51	49	21	
	19	円形	20	18	10	27	円形	36	36	17	

第15表 ビット計測表 (3)

グリッド	番号	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	グリッド	番号	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
C-5	28	円形	32	32	23	C-5	65	方形	26	24	47
	29	楕円形	70	43	17		66	円形	27	26	50
	30	楕円形	45	38	15		67	楕円形	30	26	36
	31	円形	47	42	21	C-6	1	不整形	32	20	10~32
	32	楕円形	70	63	16		2	楕円形	42	31	36~38
	33	楕円形	40	31	15		3	楕円形	42	36	32
	34	楕円形	48	42	15		4	(円形)	23	(20)	49
	35	円形	52	47	17	D-3	1	円形	28	27	27
	36	円形	47	43	14		2	円形	44	39	11
	37	楕円形	35	28	31		3	円形	26	24	14
	38	円形	31	28	24		4	円形	43	40	10
	39	楕円形	55	48	16		5	円形	38	35	16
	40	楕円形	65	58	21		6	楕円形	33	28	11
	41	楕円形	50	(35)	17		7	円形	49	(50)	23
	42	円形	37	33	18		8	円形	48	(43)	19
	43	楕円形	40	33	14		9	楕円形	50	44	15
	44	円形	28	25	17		10	楕円形	62	46	23
	45	不整形	38	32	28		11	楕円形	44	37	13
	46	楕円形	32	30	14		12	楕円形	90	47	11
	47	楕円形	30	24	22		13	楕円形	73	(41)	16
	48	楕円形	35	27	6	D-4	1	円形	65	56	16
	49	円形	36	33	38		2	不整形	40	24	33
	50	楕円形	27	22	7		3	円形	28	27	-
	51	円形	35	33	27		4	円形	35	33	11
	52	楕円形	80	70	38		5	円形	34	30	14
	53	楕円形	47	38	28		6	楕円形	40	27	12
	54	円形	30	27	8		7	円形	25	19	20
	55	楕円形	36	24	18		8	円形	18	15	2
	56	楕円形	46	35	23		9	円形	32	28	55
	57	円形	25	23	19		10	円形	25	25	19
	58	円形	23	22	20		11	円形	26	24	25
	59	円形	28	26	62	D-5	1	円形	31	27	47
	60	楕円形	52	39	55		2	円形	20	17	12
	61	円形	29	27	45		3	楕円形	28	24	12
62	円形	31	27	62	4		楕円形	32	25	41	
63	円形	31	30	63	5		円形	29	27	20	
64	楕円形	33	27	40	6		円形	29	25	21	

## 5. グリッド出土遺物

### 出土土器 (第36図1～20)

縄文時代の土器は、調査区内から少量が検出されている。

1は胴部の破片である。器面には平行沈線文を施し、沈線文間には連続して刺突文を施している。刺突内には刻みが認められ、先端部が分割している形状の施文具を使用していたと考えられる。胎土には白色粒子を含む。小破片のため詳細な時期は不明だが、前期と考えられる。

2～4は中期中葉の勝船系土器である。2は口縁の把手部分の破片である。隆帯によって円形文が貼付されている。3は頸部付近の破片である。隆帯上には刻みが施されている。隆帯に沿って沈線文が施される。4は隆帯上に刻みを施しているもので、隆帯の両側には沈線文を施している。区画内には、キャタピラ文や集合沈線文を施している。

5～12は中期後葉の土器群である。

5～7は口縁部文様帯を持つ加曾利E式系のキャリパー形土器である。5は口縁部から頸部の破片で、頸部には無文帯を持つものである。口縁部と頸部は隆帯によって区画されている。口縁部には地文として無節Rの縄文を横方向に施文している。6・7は頸部から胴部の破片で、隆帯を巡らして頸部と胴部を区画している。地文は6が燃糸文Lを、7は単節RLの縄文を縦方向に施文している。

8は連弧文系の土器で、地文として単節LRの縄文を縦方向に施文している。

9～11は、口縁部文様帯を持たない加曾利E式系の深鉢形土器である。9・10は吉井城山類の土器で、9は波状口縁部の破片である。地文として単節RLの縄文を横方向に施文している。10は胴部の破片で、磨消文沈線文を施文している。地文は単節RLの縄文を縦方向に施文している。11は胴部の破片で、微隆起状の隆帯が貼付されると考

えられる。隆帯に沿ってナデ状の沈線文が器面に残存している。地文として単節LRの縄文を縦方向に施文している。

12は曾利系の深鉢形土器の胴部の破片である。隆帯を胴部に垂下させている。地文は条線である。

13～17は中期末葉から後期初頭の加曾利E式系土器である。

13は胴部の括れ部分の破片である。文様は沈線によって施文されている。沈線文内には地文として単節LRの縄文を、文様の形状に合わせて充填している。

14・15は微隆起状の隆帯によって文様を施文する深鉢形土器の胴部破片である。14は岩坪類、15は1段懸垂文類の文様を持つものと考えられる。地文は単節LRの縄文を施文している。

16・17は地文のみが施される深鉢形土器の胴部破片である。16は単節LRの縄文を、縦方向と横方向に向きを変えて羽状に施文している。17は単節RLの縄文を縦方向に施文している。

18～20は後期初頭の称名寺式土器である。

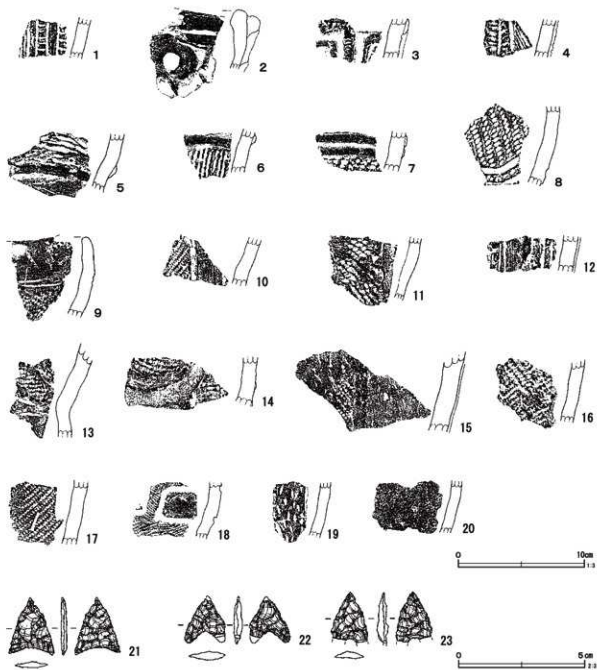
18は口縁部付近の破片で、沈線で窓枠状の文様を施文している。単節LRの縄文を形状に沿って充填施文している。19は沈線文内に列点文を施文している。20は無文の胴部破片である。

### 出土石器 (第36図21～23)

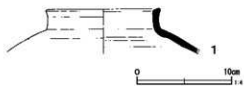
縄文時代の石器は、調査区から黒曜石製の無茎石鏃が3点検出された。図示しなかったが、黒曜石の剥片も数点検出されている。

21はほぼ完形で出土した無茎の石鏃である。基部には浅い抉りが入る。長さ21cm、幅1.8cm、厚さ0.25cmで、重さは0.5gである。22は先端部と右脚部が一部欠損する。基部には抉りが逆V字状に深く入る。残存する長さ1.7cm、幅1.6cm、厚さ0.25cmで、重さは0.7gである。23は両脚部を欠損するものである。残存する長さ20cm、幅1.45cm、厚さ0.45cmで、重さ0.7gである。





第36図 グリッド出土遺物 (1)



第37図 グリッド出土遺物 (2)

第16表 グリッド出土遺物観察表 (第36図)

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	短頸壺	(11.8)	(4.8)	-	15	砂白針	良好	灰	体部外面降灰自然軸 南比企産

## V 調査のまとめ

### 1. まま上遺跡の時期的変遷

まま上遺跡では、遺構・遺物は平安時代前半を主体としており、平安時代の他に縄文時代中期と中世の遺物が若干出土した。

縄文時代の遺物は、ピットや土壌の覆土中より平安時代の遺物と混在して出土しており、混入遺物であり遺構に伴うものではなかった。

平安時代は8軒の住居跡が9世紀初頭から9世紀後半の約100年の間に継続して作られ、第4号住居跡を最後に廃絶したとみられる。

溝跡からは須恵器や灰軸陶器、中世の陶器が検出されており、須恵器・灰軸陶器のみが検出された第3号溝は平安時代の可能性がある。他の多くの溝跡は高麗川を望む緩斜面の崖線にあり地割溝と考えられ、主に中世に掘られたと考えられる。

次に平安時代の住居跡の変遷をみていくこととする。須恵器が主体であり、南比企窯跡群産の特徴である胎土に白色針状物質を含むものが多数を占めている。

第6号住居跡の須恵器坏の底部調整は、回転糸切り後周辺ヘラ削りのものが主体で、全面回転ヘラ削りのものもみられる。やや小型の須恵器高台付坏は、体部が高台部から立ち上がるものではなく、僅かに腰を張り、そこから直線的に立ち上がり口縁部にいたるものである。須恵器坏の底部調整の主体が周辺ヘラ削りであることと高台付坏の高台から体部への立ち上がりに僅かに腰を張る特徴からみて、鳩山Ⅳ期に相当するものである。

第3号住居跡の須恵器坏の底部調整は、周辺ヘラ削りが主体であるが、糸切り後無調整の坏が出現する。鳩山Ⅳ期から鳩山Ⅴ期にかけてのものと考えられる。

第1号住居跡の坏は、口径12.3cm、底径6.5cm、器高3.6cmで、他の住居跡の坏に比し底径が口径

の1/2より大きく、器高も低く鳩山Ⅳ期と考えられる。

第2号住居跡の坏は、口径11.6cm、底径5.8cm、器高4.0cmと口径12.3cm、底径6.2cm、器高3.9cmで、底径が口径の1/2であり、器高も4cmと高めで口縁部も外反していることなどから鳩山Ⅳ期と考えられる。

第5号住居跡の坏は、口径11.2cm～12.2cm、底径5.5cm～6.2cm、器高3.3cm～4.0cmとばらつきがある。器高が低いものは、底径が口径の1/2より小さいものと大きいものがあり、器高が高いものは底径が口径の1/2であり、底径がさらに縮小化するような傾向がみられる。さらに、1点のみであるが灰軸陶器が出土している。鳩山Ⅳ期に入ると考えられるが、第2号住居跡の後に続くものと考えられる。

第8号住居跡の坏は酸化焰焼成のもので、口径12.2cm、底径6.1cm、器高4.5cmと、いずれも底径が口径の1/2程度に集中する。底径が口径の1/2であり、器高が4.5cmと他の須恵器に比較して高い。第8号住居跡は、第4号住居跡構築の際には、第4号住居跡の貼床となっていることから、第4号住居跡より古いことは明らかである。

第4号住居跡は須恵器と灰軸陶器を共伴し、須恵器坏は、口径12.0cm～12.6cm、底径5.8cm～6.3cm、器高3.7cm～4.2cmの底径が口径の1/2程度のものとして口径13.0cm～13.2cm、底径6.0cm～6.1cm、器高3.8cm～3.9cmの底径が口径の1/2より小さくなるものとの2タイプが混在している。また、埴の底部調整は糸切り無調整のものだけになっている。更に灰軸陶器の埴・皿・段皿・長頸瓶を共伴しており、鳩山Ⅳ期以降と考えられる。

墨書土器は第2号住居跡から1点、第4号住居

跡からは6点が出土している。第2号住居跡は、須恵器底部外面に「王」の墨書、第4号住居跡は須恵器坏底部内面のもとと体外外面に「王」、酸化焰焼成の埴体体外外面に「春」、皿底部内面に「十」、須恵器坏底部内面に3本線の墨書、酸化焰焼成の埴体体外外面に不明であるが墨書がみられる。

まます遺跡では第10次調査以外に9軒の平安時代の住居跡が調査されており、須恵器坏の底部調整は糸切後周辺へラ削りのもとと糸切後無調整のものが見られる。SBH5（以下、SBHは町教委調査）は、周辺へラ削りと糸切後無調整のものが共存しており、本調査の第6号住居跡より後出であり、第3号住居跡と同時期頃の鳩山Ⅳ期からⅤ期にかけてのものと考えられる。SBH3・SBH6は、糸切り後無調整で底径が口径の1/2以上で、第1号住居跡より先行するもので鳩山Ⅵ期と考えられる。1号住居跡（まます1次）・SBH4は、底径が口径の1/2である。高台付埴、無高台皿があることから鳩山Ⅶ期からⅧ期のものと考えられる。SBH8・H-11号住居跡（まます6次）は底径が口径の1/2以下を大きく下回り、無高台皿が共存することから鳩山Ⅷ期と考えられる。

まます遺跡は、鳩山Ⅳ期の第6号住居跡から始まり鳩山Ⅷ期以降の第4号住居跡まで続く想定できる。鳩山Ⅵ期以降は築地遺跡も含めた同一の集落になる様相を示し、鳩山Ⅳ期からⅤ期にかけてが第3号住居跡・SBH5、Ⅵ期がSBH3・SBH6、Ⅶ期からⅧ期にかけてがSBH4、Ⅷ期がまますH-11号住居跡、Ⅷ期以降が第4号住居跡になると考えられる。

墨書土器は隣接する築地遺跡でも見られ、H-1号住居跡（以下、H-は築地遺跡）は7.29m×6.20mと大型であり、墨書土器が出土しており「乙」の墨書が20点以上出土し、他に「九」などが僅かに認められる。H-2号住居跡は4.97m×3.96mの長方形で、7点の墨書土器が出土し「九」

などがみられ、滑石製丸軋が出土している。H-9号住居跡は5.19m×4.47mとほぼ方形で、墨書土器を2点出土しているが文字としては「里」が1点出土している。

築地遺跡は、H-1号住居跡が9～7mを超える最大の住居跡と、4～5mほどの中型の住居跡とからなる。まます遺跡（10次調査）で最大の第4号住居跡は4～5mであることから、築地遺跡とともに考えると中型の住居跡であり、墨書土器出土住居跡は中型の住居跡と小型の3～4mの住居跡ということになる。

まます遺跡と築地遺跡で墨書された文字は住居跡ごとに、「王」「乙」「九」「里」と主体となる文字が異なっている。まます遺跡では、第2号住居跡で「王」1点、第4号住居跡で「王」2点の他に「春」「十」が一点ずつ出土した。築地遺跡では、H-1号住居跡では「乙」が20点以上でその他に「九」が2点、H-2号住居では「九」だけが2点、H-9号住居跡では「里」が1点である。墨書土器には墨書の文字が住居跡ごとに主体となるものと、他の住居跡と同じものを一部含む住居跡がある。H-9号住居跡の坏は底径が口径の1/2以上で、鳩山Ⅵ期からⅧ期と考えられる。築地H-1号住居跡・築地H-2号住居跡の坏はすべて底部糸切後無調整である。H-1号住居の坏は、底部が口径の1/2前後に集中するが、H-2号住居跡の坏は、底径が口径の1/2以下で、縮小化の傾向がある。H-1号住居跡が鳩山Ⅶ期からⅧ期にかけてのもので、後続するH-2号住居跡が鳩山Ⅷ期と考えられる。

墨書土器の出現は、築地遺跡H-9号住居跡からみられ、これに続いてまます遺跡・築地遺跡の両遺跡で最大の住居跡であるH-1号住居跡から中型の住居跡であるH-2号住居跡、そして、まます遺跡第4号住居跡へと継続する。

## 2. 「王」銘墨書について

まます遺跡（第10次）では、「王」「春」などの墨書土器が出土した。中でも「王」の墨書は3点出土しており、本遺跡の性格を評価するための重要な資料になるものと思われる。したがって本項では、武蔵国内で確認された「王」の文字を集成するとともに、まます遺跡から出土した「王」の墨書土器について若干の考察を加えてみたい。

まず、武蔵国内で報告されている「王」の文字資料は、本報告遺跡も加えて8遺跡、11例確認することができた。なお、6と10に関しては「玉」とも受け取れるが、「王」である可能性があることから集成に加えたものである。

各資料の年代は、八世紀後半から九世紀後半の間でやや幅がある。最も古い例は8・9の八世紀後半と考えられ、いずれも国府周辺の遺跡から出土したものである。

文字の表記方法は、若葉台遺跡から出土した4は焼印、武蔵国府関連遺跡から出土した8・9は刻書であるが、その他は墨書である。9のように、体部内面には刻書で表された「王」、外面には○にみえる記号が墨書されるといった異なる表記方法の組み合わせも存在する。4の焼印は井戸跡から出土した木皿に押印されており、焼印の性格から所有を示すものとも解釈できるが、焼印本体は現時点では見つかっていない。王の焼印は武蔵国内での出土例はないが、神奈川県平塚市に所在する構之内遺跡から出土している。また、構之内遺跡及び同市に所在する真田・金目遺跡群でも「王」銘墨書が出土している。

文字の表記位置は、2・4が底部内面、1・5・7が底部外面、8・9が体部内面、他は体部外面であり、表記位置に統一性はない。また、文字の方向についても器を正位に置いた場合、正位に書かれているものと横位のものがあり、現時点では法則を見出すことは出来ないが、用途に応じて表記位置や方向を変えていた可能性も考えられる。

事例が少ないため、これらの資料をもって何かを言及するには至らないが、国府周辺及び入間郡域の遺跡から複数点確認されていることにひとまず注目しておきたい。

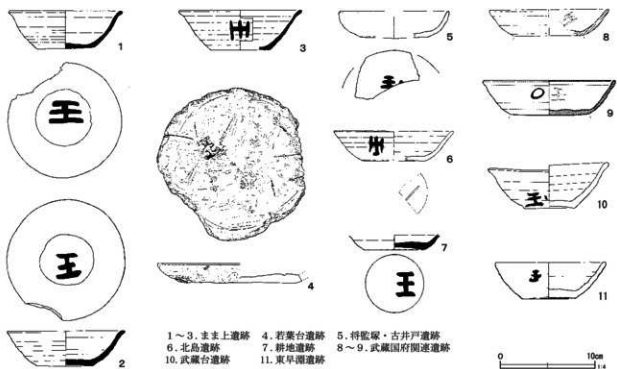
次に、まます遺跡の「王」銘墨書について若干の考察を行いたい。まます遺跡は、入間郡高階郷に属した集落と考えられているが、ここでまず思い浮かぶのは高麗郡との関係、すなわち背奈王や高麗王といった王姓を賜った一族の存在である。

4が出土した若葉台遺跡では、「王」の意味について「続日本紀」天平19年(747)の条の記載から背奈王一族と若葉台遺跡周辺の関係を指摘している(斉藤・早川1993)。

さて、毛呂山町内における高麗川流域の開発は上流部に始まり、下流へと進出していくことが確認されている(佐藤2000)。高麗郡建郡や若葉台遺跡周辺と同時期にあたる八世紀前半に開始されることから、この動きを高麗郡との関わりで捉えることもできる。八世紀後半に成立するまます遺跡及び隣接する築地遺跡の開始は、高麗郡建郡に伴う一連の動きも落ち着き、「磐田永年私財法」施行後のこの時期にあつて、未開発地であった高麗川左岸域へ生産基盤の拡大を図ったものとも考えられる。ここに、開発を主導したと思われる有力者の存在が窺われ、王姓を賜った高句麗系氏族の存在が浮かびあがるところである。

以上のことから、まます遺跡で出土した「王」銘墨書土器は高句麗系氏族である背奈王や高麗王の姓を表したものであり、同時に開発地の領有を示したものである可能性が想定される。

また、若葉台遺跡の「王」と関連すると考えるならば、高麗郡と入間郡の郡域及び、氏族の勢力範囲が問題となる。今回は検討できなかったが、高麗郡家と考える説(宮瀧1999)もある若葉台遺跡周辺及び、両郡に属する遺跡に詳細な検討を加えたうえで再考してみたい。



第38図 武蔵国内出土「王」銘墨書関連資料

第17表 武蔵国内出土「王」銘墨書関連資料集成表

番号	遺跡名	現所在地	旧郡名	出土遺構	器種	種類	文字位置	時期
1	まま上遺跡 (第10次)	埼玉県毛呂山町	入間郡	第2号住居跡	須恵器環	墨書	底外	9世紀後半
2	まま上遺跡 (第10次)	埼玉県毛呂山町	入間郡	第4号住居跡	須恵器環	墨書	底内	9世紀後半
3	まま上遺跡 (第10次)	埼玉県毛呂山町	入間郡	第4号住居跡	須恵器環	墨書	体外	9世紀後半
4	若葉台遺跡 (E地点)	埼玉県坂戸市	入間郡	第1号井戸跡	木皿	焼印	底内	9世紀後半
5	狩獵塚・古井戸遺跡	埼玉県本庄市	児玉郡	第75号竪穴建物跡	土師器環	墨書	底外	9世紀前半
6	北島遺跡 (第16地点)	埼玉県熊谷市	埼玉郡	遺構外	須恵器環	墨書・刻書	体外・底外	9世紀前半
7	耕地遺跡	埼玉県小川町	比企郡	第2号住居跡	須恵器環	墨書	底外	9世紀中頃
8	武蔵国府岡連遺跡 (日嗣地区)	東京都府中市	多摩郡	第2・3号住居跡	須恵器環	刻書	体内	8世紀後半
9	武蔵国府岡連遺跡 (京王マンション地区)	東京都府中市	多摩郡	第10号住居跡	須恵器環	墨書・刻書	体外・体内	8世紀後半
10	武蔵台遺跡	東京都府中市	多摩郡	第69号住居跡	須恵器環	墨書	体外	8世紀後半
11	東早瀬遺跡 (第4地点)	東京都練馬区	豊島郡	第1号住居跡	須恵器環	墨書	体外	9世紀中頃

※表の番号は第38図に対応

## 引用・参考文献

- 井上高明 1986 「将監塚・古井戸遺跡 歴史時代編Ⅰ」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第111集
- 上野貞由美 1998 「耕地遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第204集
- 大野悟他 2000 「構之内遺跡発掘調査報告書」 平塚市遺跡調査会
- 加藤恭朗・坂野千登勢 2005 「若葉台遺跡 ―若葉台遺跡発掘調査報告書Ⅵ―」 坂戸市教育委員会
- 金子直行 2001 「まます遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第242集
- 河内公夫 1999 「武蔵国分寺跡西方地区 武蔵台遺跡Ⅳ」 都立府中病院内遺跡調査会
- 小金井靖 1991 「東早淵遺跡 ―第4地点―」 練馬区教育委員会
- 齊藤稔・早川由利子 1980 「若葉台遺跡第二次発掘調査概報 若葉台遺跡D・E地点」 鶴ヶ島町教育委員会
- 齊藤稔・早川由利子 1993 「若葉台遺跡O・P・Q・R・T地点、富士見西児童公園発掘調査報告書」 鶴ヶ島市遺跡調査会
- 佐藤春生 1995 「町内遺跡発掘調査報告書(2) ―まます上4次・白綾3次・まます上6次・延命寺北2次―」 毛呂山町埋蔵文化財調査報告第11集
- 佐藤春生 2000 「毛呂山町町内遺跡発掘調査報告(5) 築地遺跡」 毛呂山町埋蔵文化財調査報告第20集
- 鈴木孝之 1998 「北島遺跡Ⅳ」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第111集
- 玉利秀雄 1983 「若葉台遺跡群 C～I 地点発掘調査報告書」 鶴ヶ島町教育委員会
- 塚原二郎 1991 「武蔵国府」 府中市遺跡調査会年報昭和56(1981)年度 府中市教育委員会
- 橋澤道博 1995 「まます遺跡 第2次調査・第3次調査」 毛呂山町埋蔵文化財調査報告第10集
- 藤原佳代 1995 「武蔵国府関連遺跡調査報告」 日本製鋼所遺跡調査会
- 宮藏交二 1999 「一天狗遺跡」 地点13区発掘調査報告書」 鶴ヶ島市教育委員会
- 村木 功 1990 「町内遺跡群発掘調査報告書Ⅰ ―白綾・延命寺北・大類古墳群・まます上―」 毛呂山町埋蔵文化財調査報告第7集
- 若林勝司他 1999 「平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書2 4、5、6(A～C)、7、9、11区」 平塚市真田・北金目遺跡調査会
- 渡辺 一 1990 「鳩山窟跡群Ⅱ」 「鳩山窟跡群発掘調査報告書第2冊 ―窟跡編(2)」

## 写真図版



1 調査区全景



2 調査区北部



3 調査区南部



1 第1号住居跡  
遺物出土状況 (1)



2 第1号住居跡  
遺物出土状況 (2)



3 第1号住居跡  
遺物出土状況 (3)





1 第1号住居跡  
遺物出土状況 (4)



2 第1号住居跡  
遺物出土状況 (5)



3 第1号住居跡

1 第2号住居跡  
遺物出土状況 (1)



2 第2号住居跡  
遺物出土状況 (2)



2 第2号住居跡  
遺物出土状況 (3)





1 第2号住居跡カマド



2 第2号住居跡



3 第3号住居跡

1 第4号住居跡  
遺物出土状況 (1)



2 第4号住居跡  
遺物出土状況 (2)



3 第4号住居跡  
遺物出土状況 (3)





1 第4号住居跡  
遺物出土状況 (4)



2 第4号住居跡  
遺物出土状況 (5)



3 第4号住居跡



图版 8

1 第5号住居跡焼土出土状況



2 第5号住居跡



3 第6号住居跡  
遺物出土状況 (1)





1 第6号住居跡  
遺物出土状況 (2)



2 第6号住居跡  
遺物出土状況 (3)



3 第6号住居跡  
遺物出土状況 (4)



1 第6号住居跡



2 第6号住居跡カマド



3 第4・8号住居跡





1 第4号土坑



2 第1号溝跡



3 第7・8・9号溝



1 第1号住居跡 (第8图1)



5 第2号住居跡 (第10图2)



2 第2号住居跡 (第10图1)



6 第3号住居跡 (第12图1)



3 第2号住居跡 (第10图1) 底部



7 第3号住居跡 (第12图2)



8 第3号住居跡 (第12图3)



4 同上 (墨書)



9 第4号住居跡 (第14图2)



1 第4号住居跡（第14图1）内面



4 第4号住居跡（第14图3）



5 第4号住居跡（第14图5）



2 同上（墨書）



6 第4号住居跡（第14图8）



7 第4号住居跡（第14图11）



3 第4号住居跡（第14图1）



8 第4号住居跡（第14图14）

图版14



1 第4号住居跡 (第14图10)



2 同上 (墨書)



3 第4号住居跡 (第14图18)



4 第5号住居跡 (第17图1)



5 第4号住居跡 (第14图12) 内面



6 同上 (墨書)



7 第4号住居跡 (第14图12)



1 第5号住居跡 (第17图2)



6 第6号住居跡 (第19图1)



2 第5号住居跡 (第17图3)



7 第6号住居跡 (第19图2)



3 第5号住居跡 (第17图4)



8 第6号住居跡 (第19图3)



4 第5号住居跡 (第17图5)



9 第6号住居跡 (第19图9)



5 第5号住居跡 (第17图12)



10 第8号住居跡 (第22图1)



1 第1号住居跡 (第8图4)



4 第3号住居跡 (第12图7)



2 第2号住居跡 (第10图4)



5 第4号住居跡 (第14图21)



3 第3号住居跡 (第12图6)



6 第4号住居跡 (第14图22)



1 第8号住居跡 (第22图2)



5 第4号住居跡 (第14图7)



2 第4号住居跡 (第14图6)



6 第6号住居跡 (第20图22)



3 第4号住居跡 (第15图27)

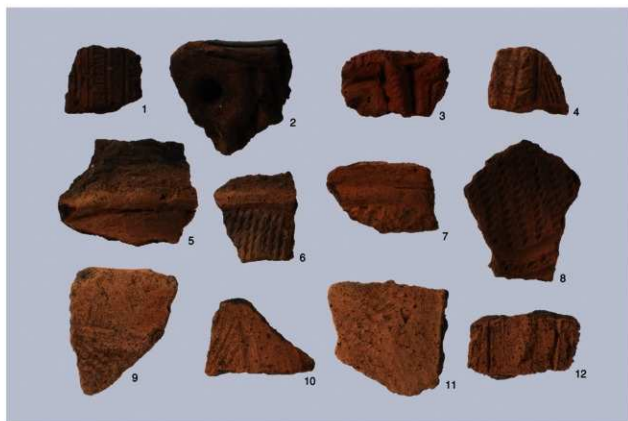


4 第6号住居跡 (第20图23)

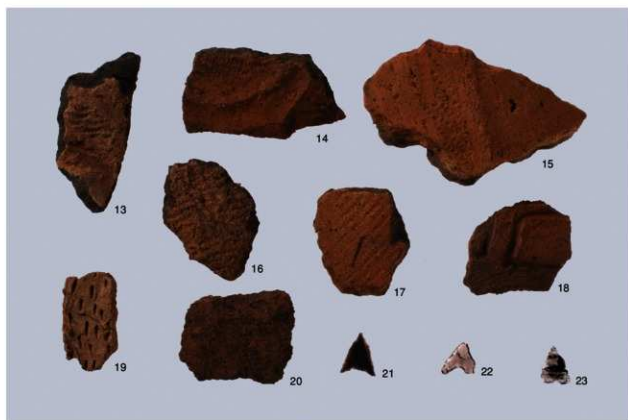


7 第1号住居跡 (第8图7)





1 グリッド出土遺物 (1) (第36図1～12)



2 グリッド出土遺物 (1) (第36図13～23)

## 報告書抄録

ふりがな	ままうえいせきに							
書名	まま上遺跡Ⅱ							
副書名	総合流域防災(河川)工事(埋蔵文化財発掘調査(整理)委託)報告							
巻次								
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第358集							
編著者名	山本 禎							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台四丁目4番地1 TEL. 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2009(平成21)年2月26日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ままうえいせき まま上遺跡 第10次調査	埼玉県入間郡 毛呂山町大字 西大久保791- 1他	11326	056	35° 56′ 54″ (世界測地系)	139° 21′ 20″ (世界測地系)	20061004 ~ 20061215	640	河川工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
まま上遺跡	集落跡	平安時代	住居跡 溝跡	7軒 1条	土師器・須恵器 灰軸陶器		墨書土器(王・春)、 灰軸陶器、鉄斧が 出土した	
		中世・近世	土壌 溝跡 ピット	47基 8条 多数	陶器			
要 約								
<p>まま上遺跡は、外秩父山地の東側に広がる入間台地の一部を構成する毛呂台地東縁に位置する。台地は山地から流れ出る河川により、幾筋かの東西方向の細長い台地に開析されている。遺跡は葛川と高麗川に挟まれた高麗川左岸の標高43mの平坦な台地縁辺に立地している。これまで9次の調査が行われ、縄文時代と平安時代の集落跡が検出されている。</p> <p>調査の結果、平安時代と中世から近世にかけての遺構・遺物が検出された。平安時代の遺構は、住居跡7軒、溝跡1条が検出された。住居跡からは土師器・須恵器、灰軸陶器や、須恵器に「王」「春」と書かれた墨書土器が出土したほかに鉄斧・刀子・鉄鎌が出土した。集落は平安時代初頭から9世紀代の集落であり、隣接する築地遺跡と一体の集落として考える必要がある。中・近世の遺構は、溝跡8条、土壌47基と多数のピットが検出されたが、明らかな時代は不明である。</p>								

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第358集

## まま上遺跡Ⅱ

総合流域防災(河川)工事(埋蔵文化財発掘調査(整理)委託)報告

平成21年2月18日 印刷

平成21年2月26日 刊行

発行/財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台四丁目4番地1

TEL 0493(39)3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷/株式会社太陽美術